

訪日外国人消費動向調査【トピックス分析】 「有償での住宅宿泊」利用観光客の詳細分析

本トピックス分析は、訪日外国人消費動向調査のデータを利用し、我が国での訪日外国人の動向についてテーマを設け、詳細な分析を行ったものである。

今回は、日本滞在中の利用宿泊施設の選択肢として平成29年7-9月期より追加された「有償での住宅宿泊」について、訪日外国人観光客の利用動向や利用者の特徴をまとめた。

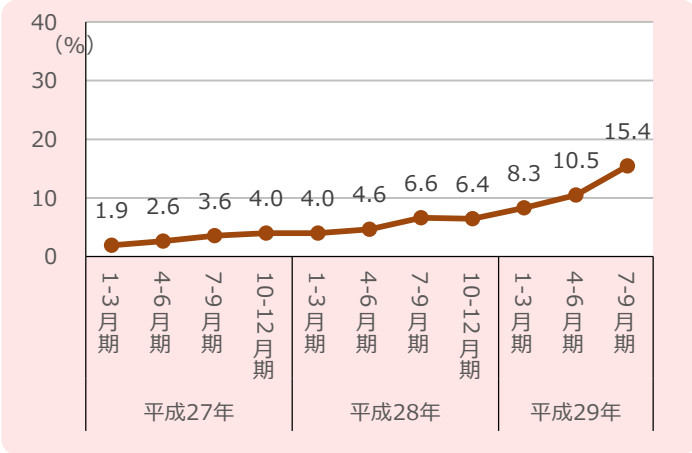
観光庁 観光戦略課 観光経済調査室

【利用上の注意】

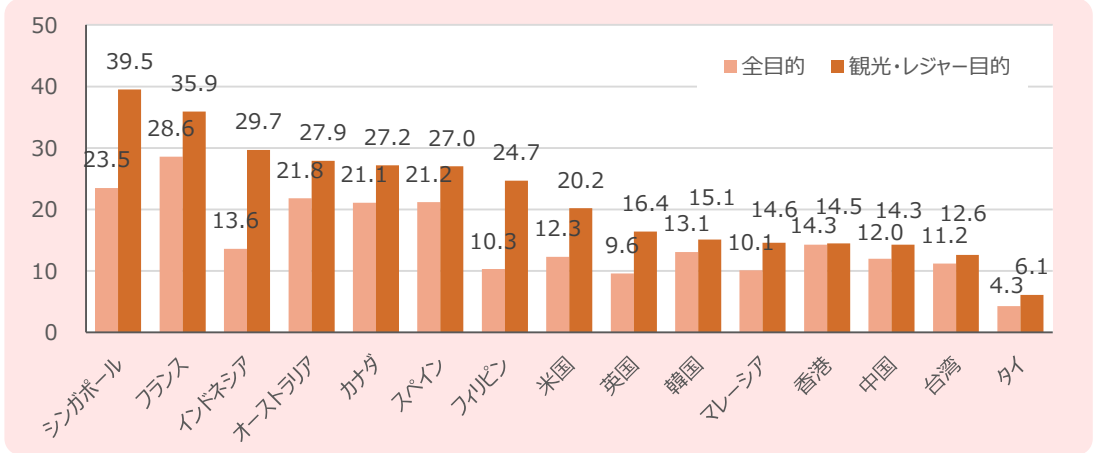
- 調査票での「有償での住宅宿泊」の選択肢表記は、「有償での住宅宿泊（Airbnb、自在客など）」である。
- 本調査は訪日外国人への外国語による聞き取り調査である。「有償での住宅宿泊」については、回答者本人が当該種類の宿泊施設を利用したと認識していない場合、他の選択肢を回答している可能性がある。
- 利用率は、旅行中に当該施設を泊数にかかわらず1泊でも利用したとの回答があった場合に利用したものとして計上され、複数種類の施設を利用した者については、それぞれの施設を利用した者として計上される。

訪日外国人旅行者の「有償での住宅宿泊」利用率は12.4%

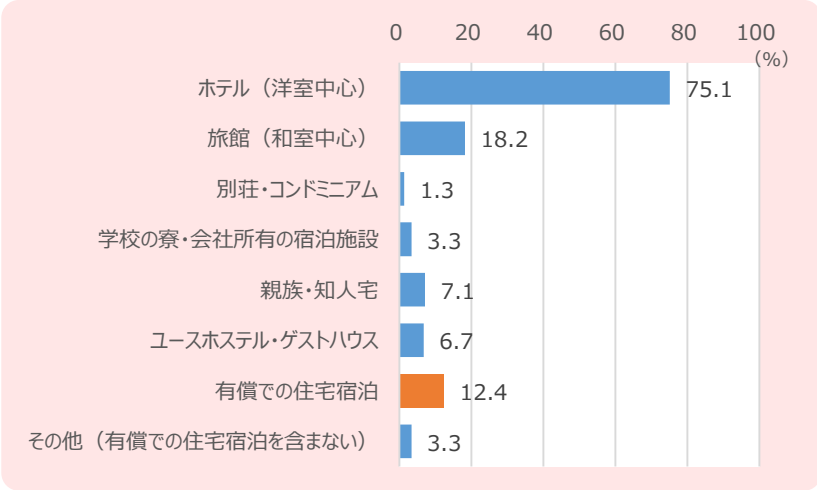
【図表1】日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」(注1)利用率の推移(訪日外国人旅行者)



【図表3】国籍・地域別日本滞在中の利用宿泊施設における「有償での住宅宿泊」利用率(注2)(平成29年7-9月期)



【図表2】訪日外国人旅行者の日本滞在中における宿泊施設利用率(平成29年7-9月期、複数回答)

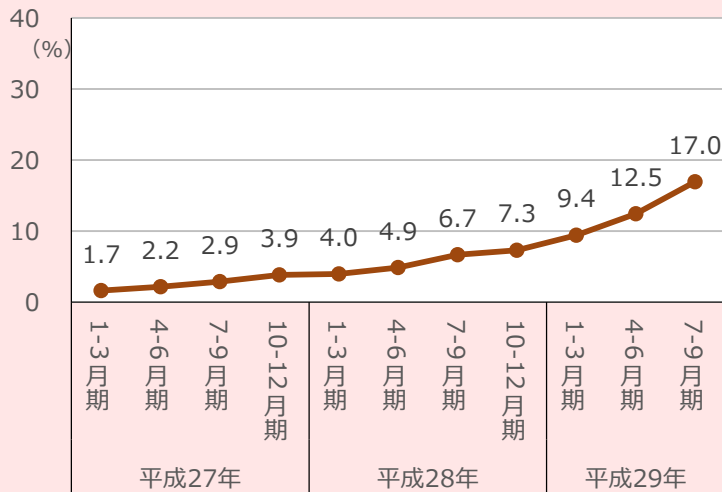


- 訪日外国人旅行者の利用宿泊施設における「その他(有償での住宅宿泊を含む)」の選択率は平成27年より増加傾向にある【図表1】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、「ホテル」(75.1%)、「旅館」(18.2%)に次いで、「有償での住宅宿泊」が12.4%と3番目に高い結果となった【図表2】。
- 「有償での住宅宿泊」の利用率は、全ての国籍・地域において、「観光・レジャー」目的客の利用率の方が訪日外国人旅行者全体での同利用率に比べ高い。「観光・レジャー」目的客の「有償での住宅宿泊」利用率を国籍・地域別にみると、「シンガポール」がおおよそ4割と最も高く、次いで「フランス」「インドネシア」「オーストラリア」の順で高い【図表3】。
- 次ページ以降では「観光・レジャー」目的客(以降、観光客と記載)に着目して、「有償での住宅宿泊」利用者の詳細分析を行う。

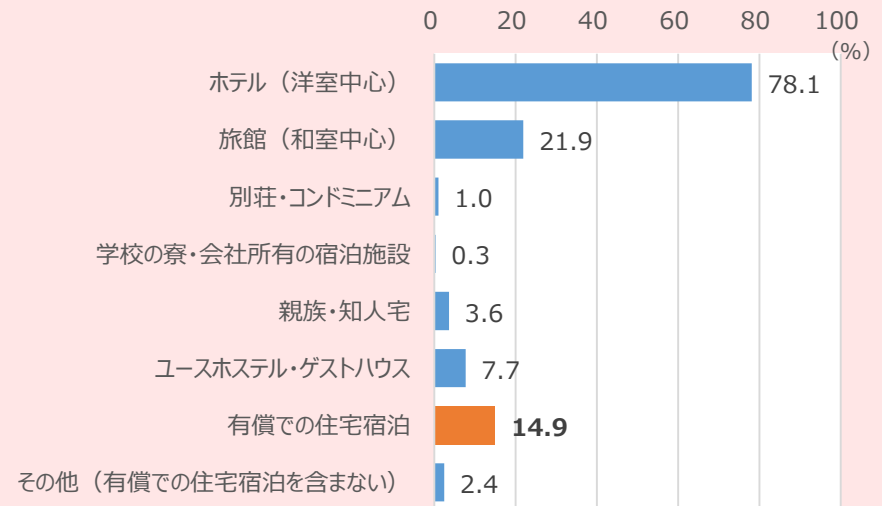
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。
 (注2) 「有償での住宅宿泊」を選択した回答数が5未満の国籍・地域を除く。(注3) 全国籍・地域の値は、国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。
 (注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

- 訪日外国人観光客の利用宿泊施設における「その他（有償での住宅宿泊を含む）」の選択率は平成27年より増加傾向にある【図表4】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、「ホテル」（78.1%）、「旅館」（21.9%）に次いで、「有償での住宅宿泊」が14.9%と3番目に高い結果となった【図表5】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者は非利用者に比べて、年代では「20代以下」、往復交通手段では「LCC」、旅行手配方法では「個別手配」、来訪回数では「1回目」、同行者では「友人」が多く、滞在日数が長い。利用者の平均泊数は7.6泊と、非利用者に比べて1.7泊長い【図表6】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は14.6万円と、非利用者に比べて1.0万円低い。費目別では利用者の宿泊料金が低い【図表7】。「有償での住宅宿泊」利用者のうち63.2%が日本滞在中に「有償での住宅宿泊」のみを利用している【図表8】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の都道府県訪問率は非利用者に比べて「大阪府」や「京都府」が高い【図表9】。「有償での住宅宿泊」利用者の日本滞在中における「今回したこと」は、非利用者に比べて「繁華街での街歩き」や各種体験などが高い【図表10】。

【図表4】日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」^(注1)利用率の推移（訪日外国人観光客）



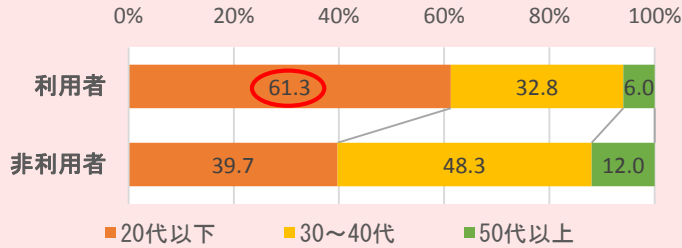
【図表5】訪日外国人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率（平成29年7-9月期、複数回答）



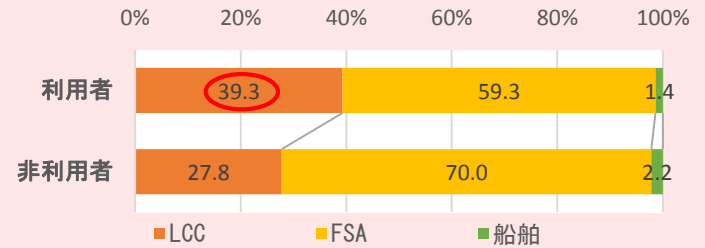
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。
 (注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。
 (注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表6】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日外国人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

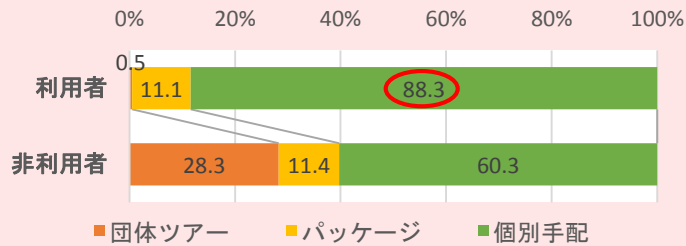
【年代】



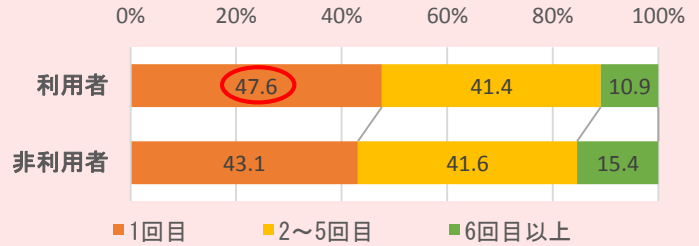
【往復交通手段(注1)】



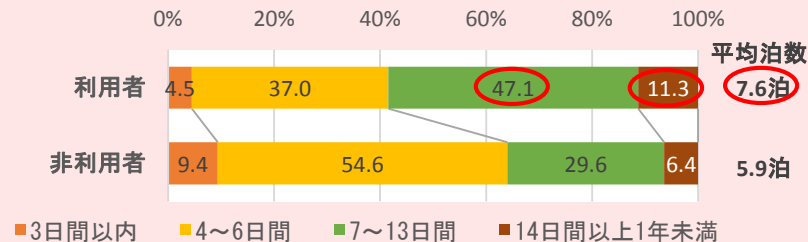
【旅行手配方法】



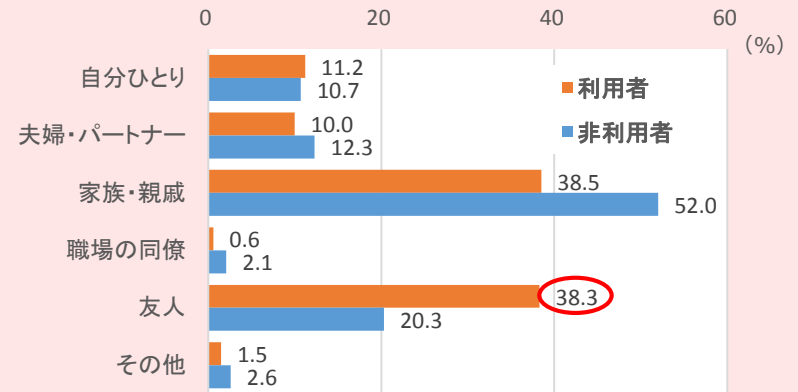
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者(注2)】



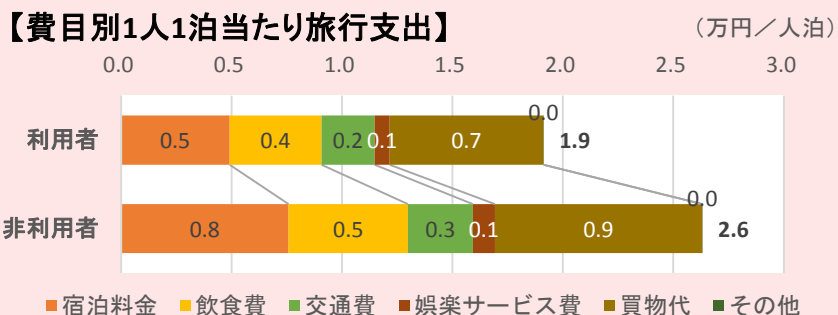
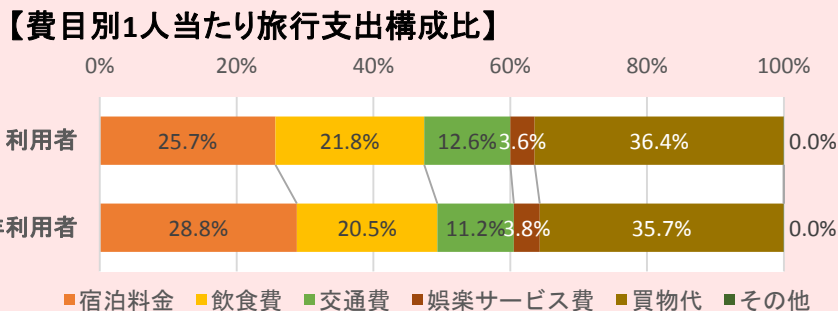
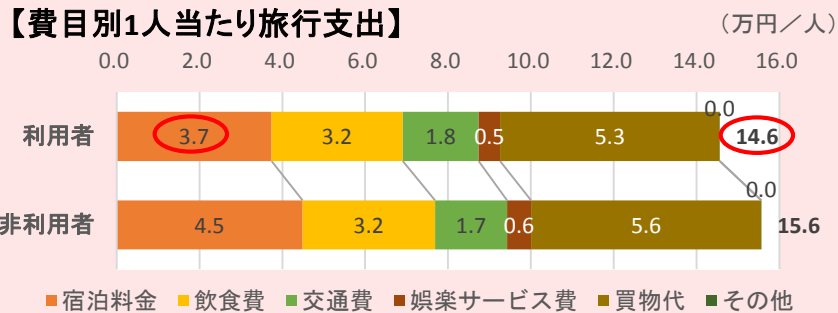
(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

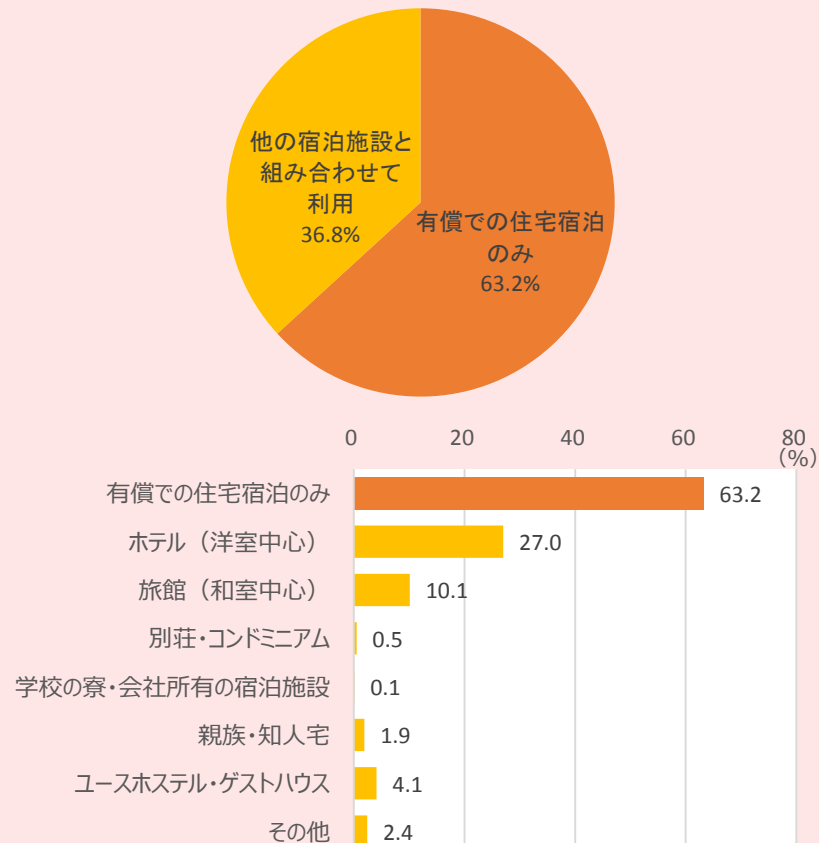
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表7】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日外国人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)



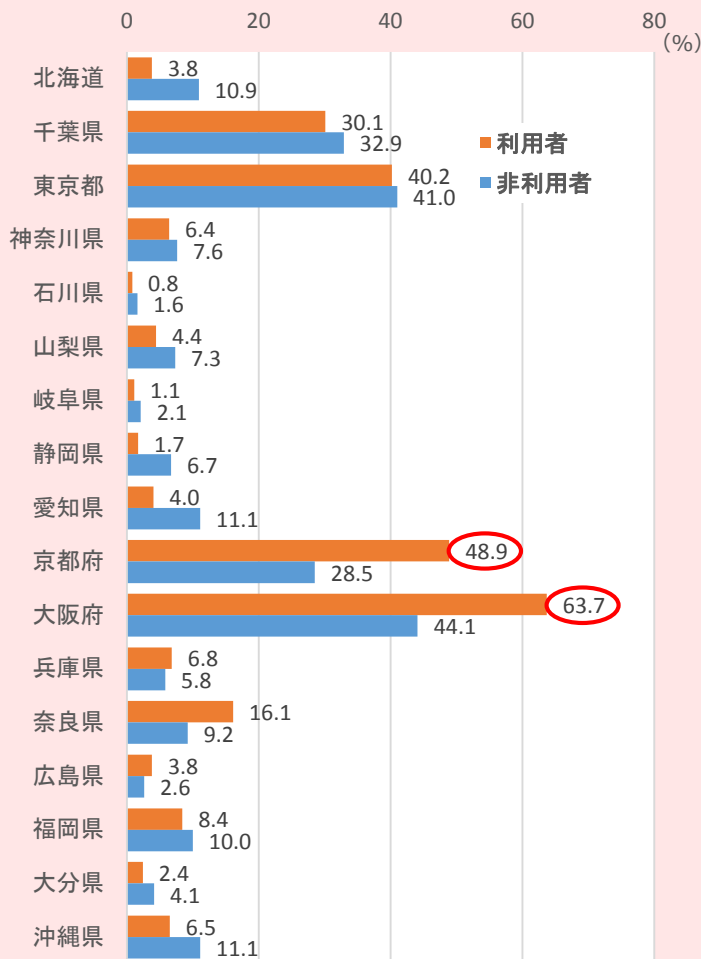
【図表8】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日外国人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)



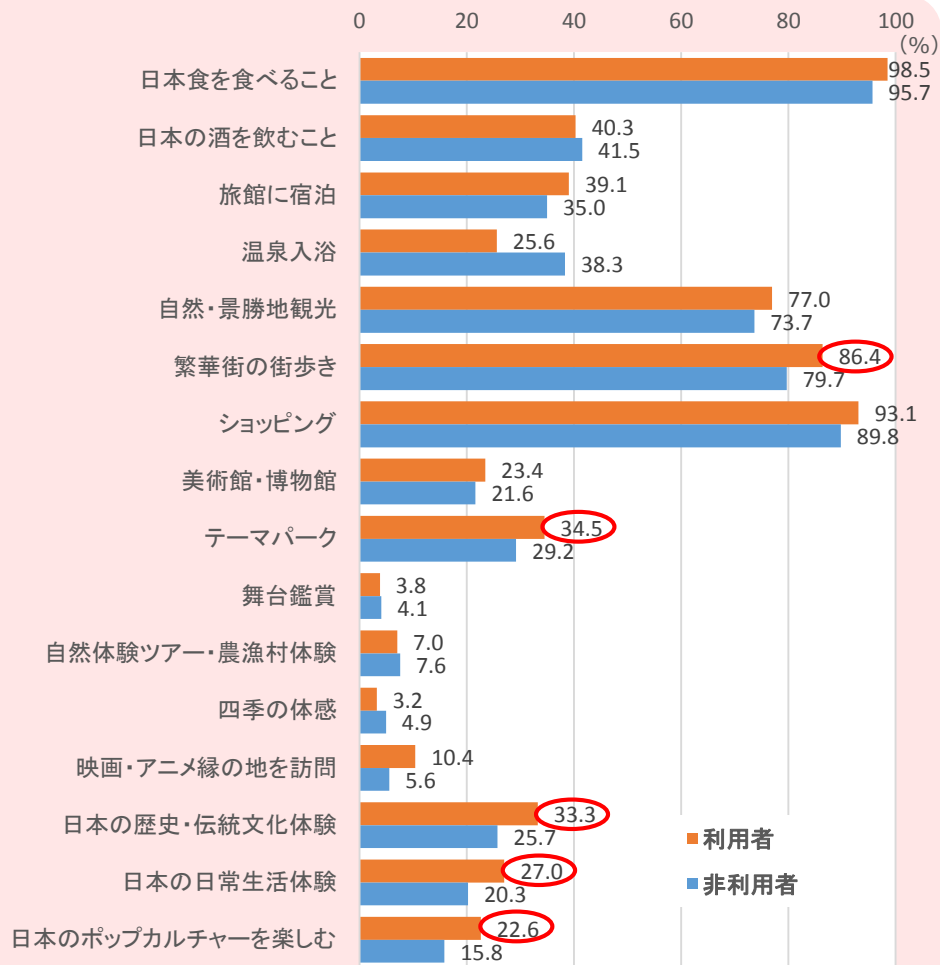
(注1) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注2) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表9】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日外国人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表10】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日外国人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)



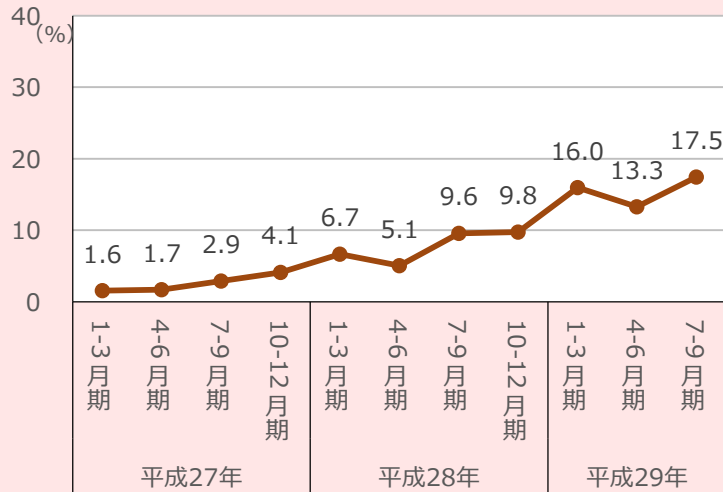
(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空海港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

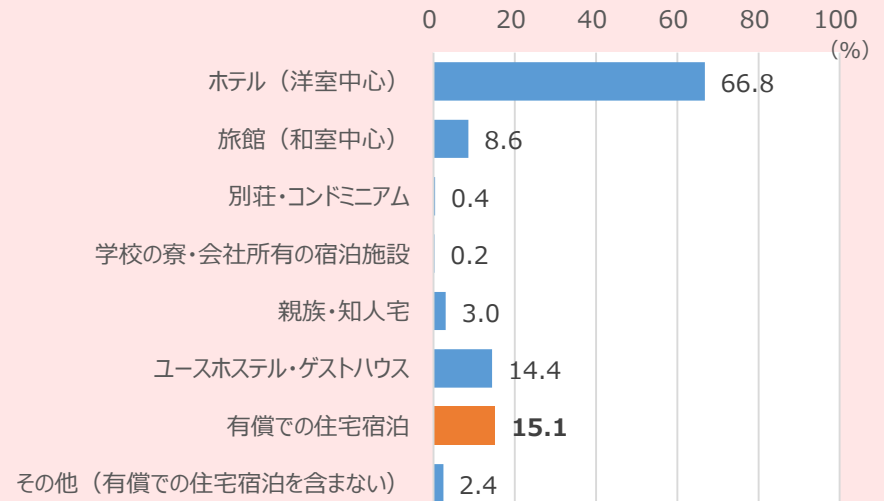
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

- 訪日韓国人観光客の利用宿泊施設における「その他(有償での住宅宿泊を含む)」の選択率は平成27年より増加傾向にある【図表11】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、最も高い「ホテル」(66.8%)に次いで、「有償での住宅宿泊」が15.1%と2番目に高い結果となった【図表12】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者は非利用者に比べて、年代では「20代以下」、往復交通手段では「LCC」、旅行手配方法では「個別手配」、来訪回数では「1回目」、同行者では「友人」が多い。利用者の平均泊数は3.9泊と、非利用者に比べて0.5泊長い【図表13】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は6.1万円と、非利用者に比べて0.9万円低い。費目別では利用者の宿泊料金が低い【図表14】。「有償での住宅宿泊」利用者のうち89.5%が日本滞在中に「有償での住宅宿泊」のみを利用している【図表15】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の都道府県訪問率は非利用者に比べて「大阪府」や「京都府」が高い【図表16】。「有償での住宅宿泊」利用者の日本滞在中における「今回したこと」は、非利用者に比べて「ショッピング」や「テーマパーク」が高い【図表17】。

【図表11】 日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」(注1)利用率の推移(韓国人観光客)



【図表12】 訪日韓国人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率(平成29年7-9月期、複数回答)



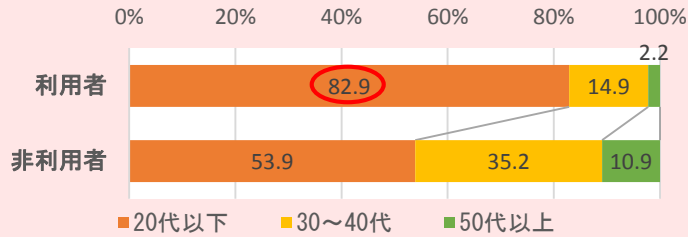
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

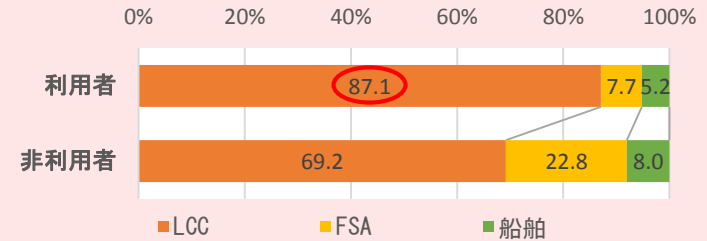
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表13】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日韓国人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

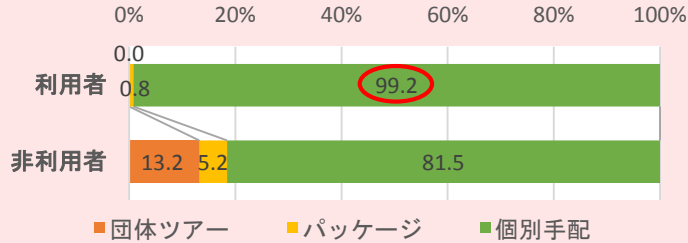
【年代】



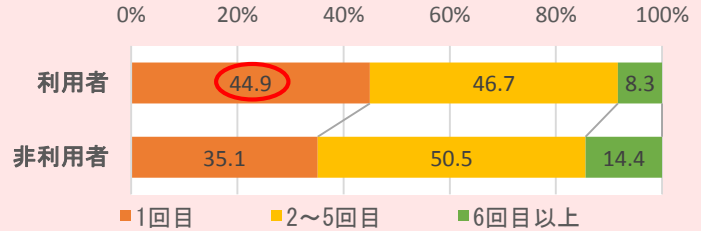
【往復交通手段(注1)】



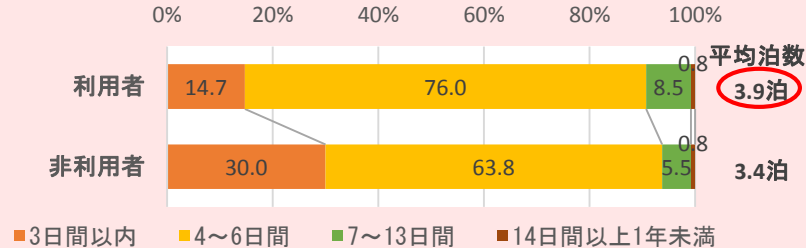
【旅行手配方法】



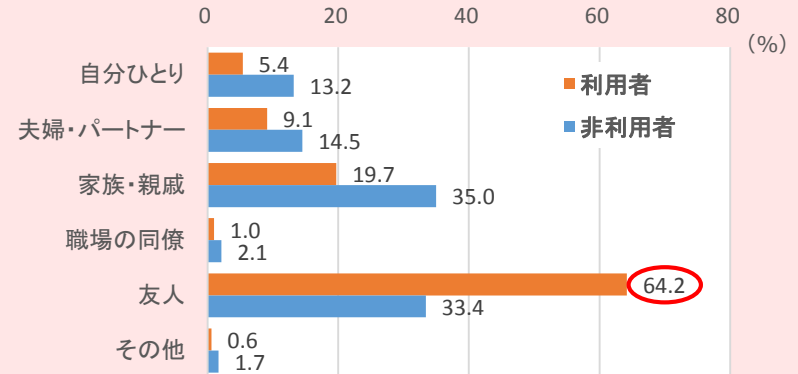
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者(注2)】



(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

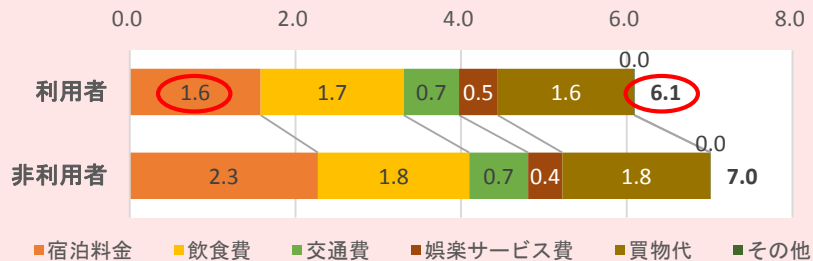
(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

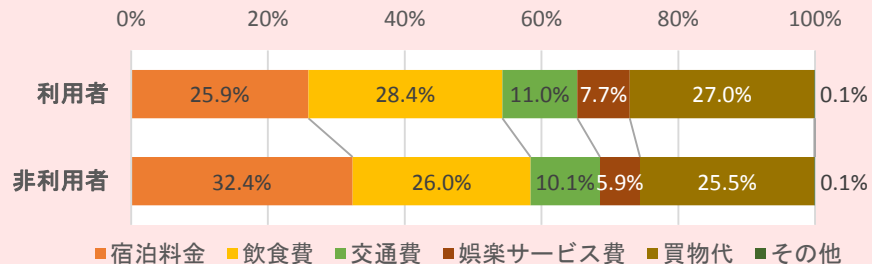
(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表14】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日韓国人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)

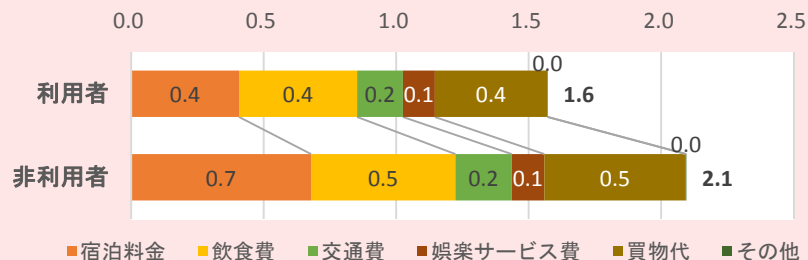
【費目別1人当たり旅行支出】 (万円/人)



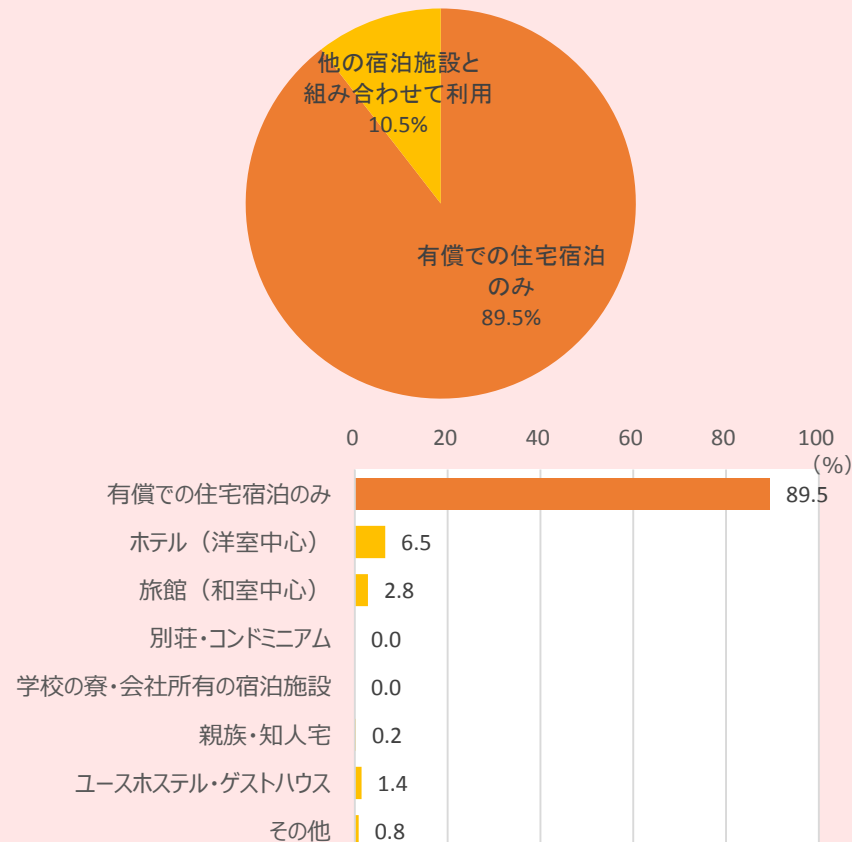
【費目別1人当たり旅行支出構成比】



【費目別1人1泊当たり旅行支出】 (万円/人泊)



【図表15】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日韓国人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)

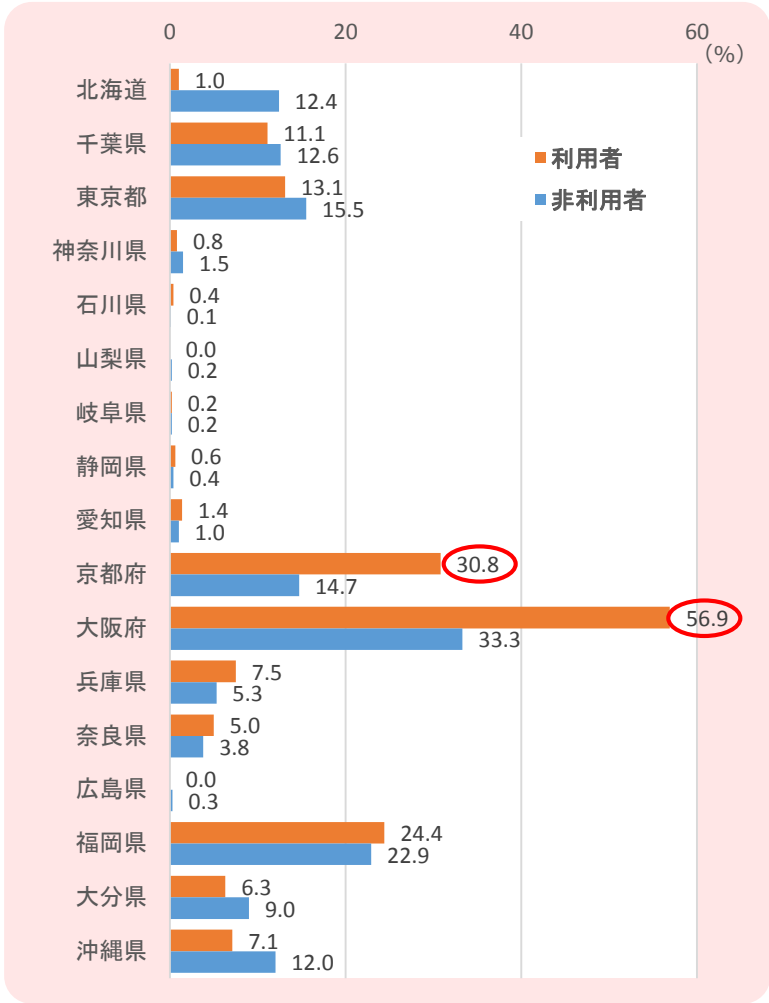


(注1) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

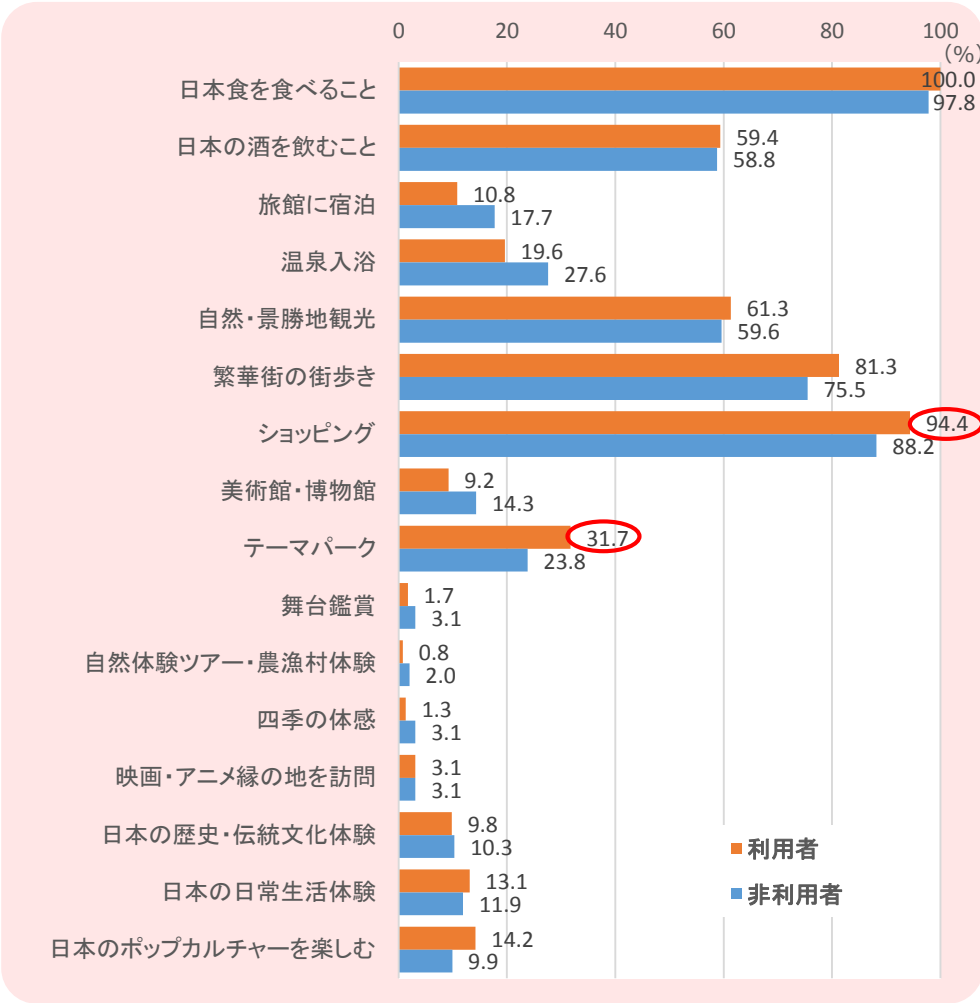
(注2) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【韓国】「有償での住宅宿泊」利用者の訪問地・活動

【図表16】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日韓国人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表17】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日韓国人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)



(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空海港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。

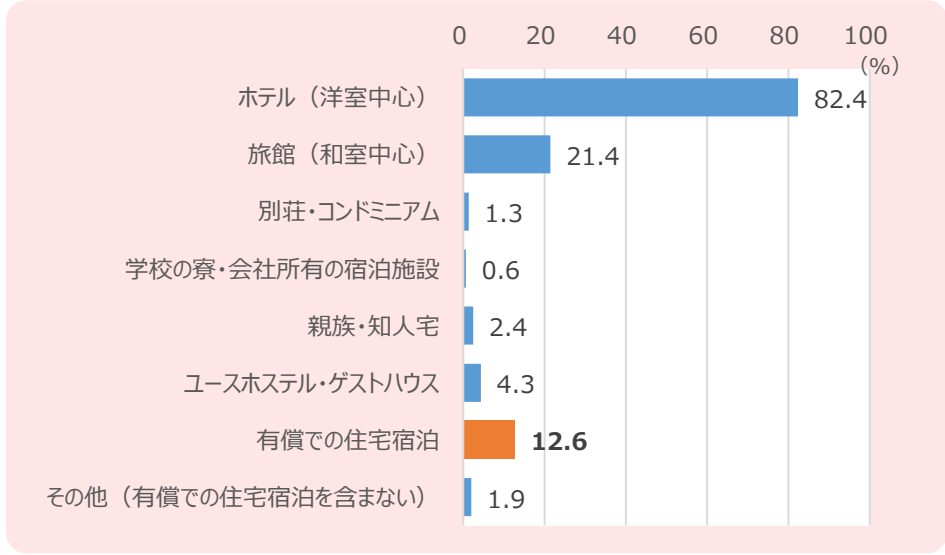
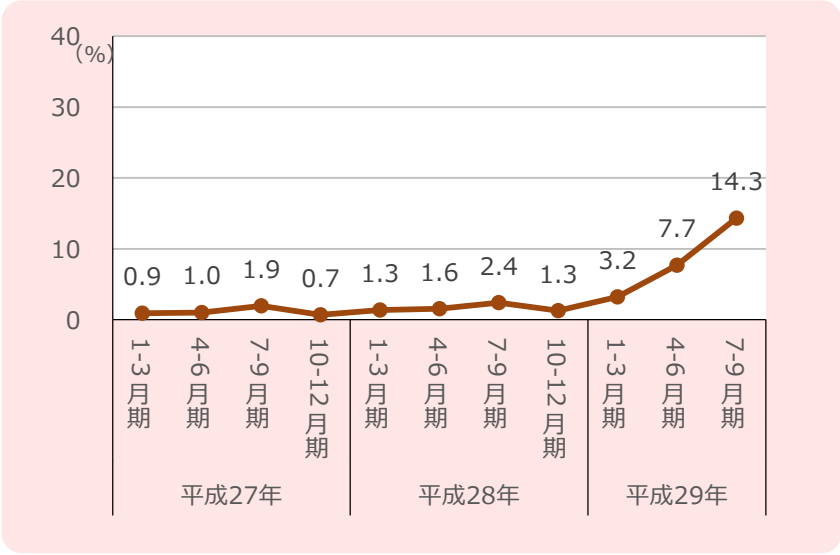
(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

- 訪日台湾人観光客の利用宿泊施設における「その他（有償での住宅宿泊を含む）」の選択率は平成29年より大きく増加している【図表18】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、「ホテル」（82.4%）、「旅館」（21.4%）に次いで、「有償での住宅宿泊」が12.6%と3番目に高い結果となった【図表19】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者は非利用者に比べて、往復交通手段では「LCC」、旅行手配方法では「パッケージツアー」と「個別手配」、同行者では「友人」が多く、滞在日数が長い。利用者の平均泊数は7.1泊と、非利用者に比べて2.0泊長い【図表20】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は、非利用者に比べて、宿泊料金が低く飲食費が高い【図表21】。「有償での住宅宿泊」利用者のうち62.8%が日本滞在中に「有償での住宅宿泊」のみを利用している【図表22】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の都道府県訪問率は非利用者に比べて「大阪府」や「京都府」、「奈良県」が高い【図表23】。「有償での住宅宿泊」利用者の日本滞在中における「今回したこと」は、非利用者に比べて「映画・アニメ縁の地を訪問」が高い【図表24】。

【図表18】 日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」(注1)利用率の推移(台湾人観光客)

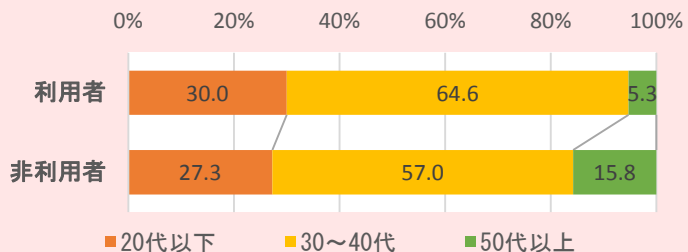
【図表19】 訪日台湾人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率(平成29年7-9月期、複数回答)



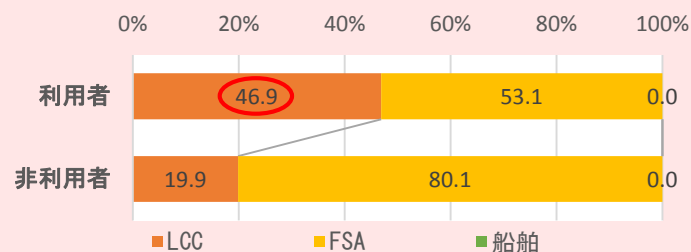
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。
 (注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。
 (注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表20】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日台湾人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

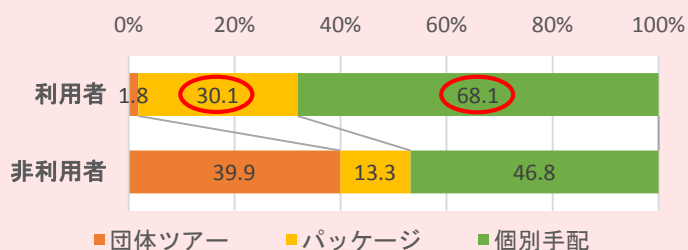
【年代】



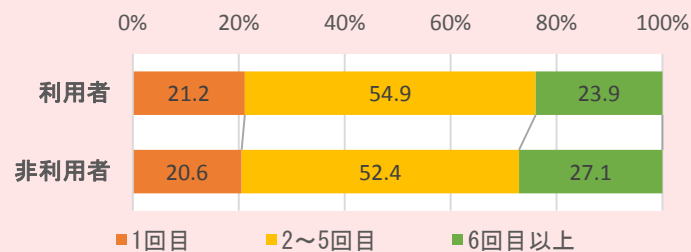
【往復交通手段^(注1)】



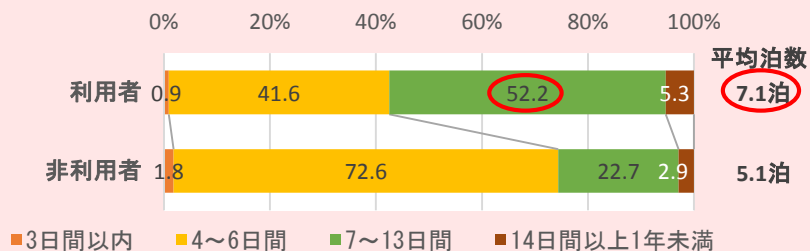
【旅行手配方法】



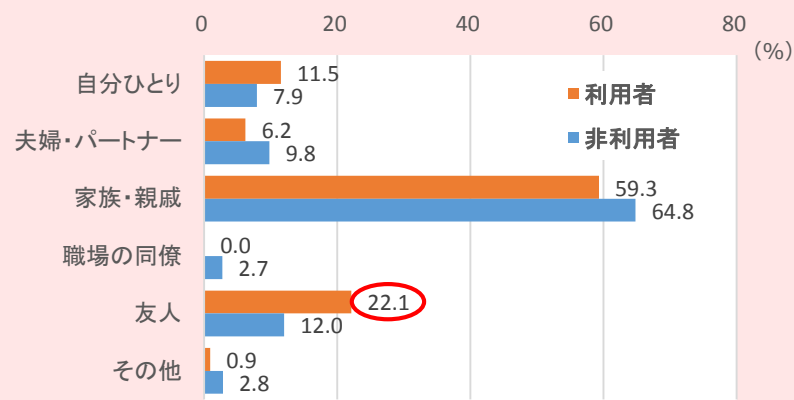
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者^(注2)】



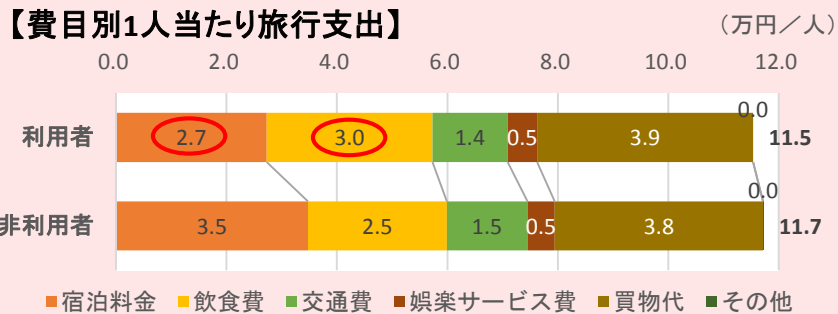
(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

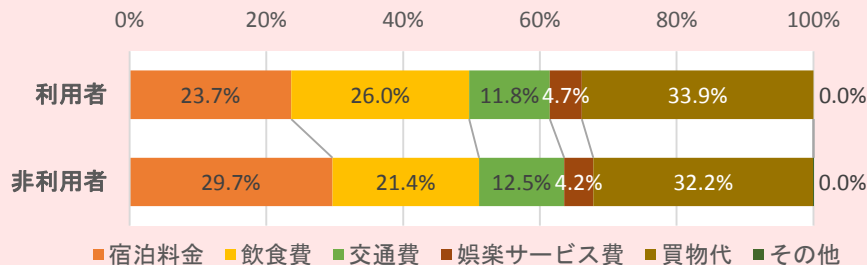
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

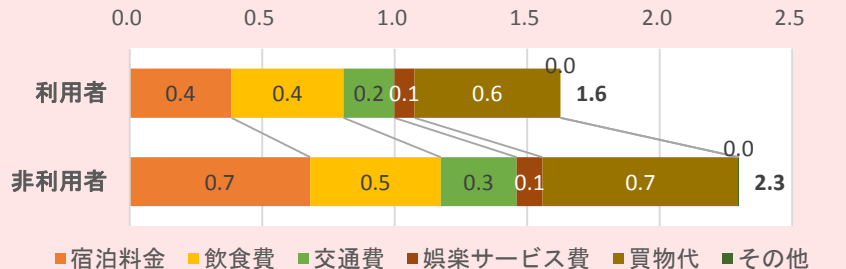
【図表21】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日台湾人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)



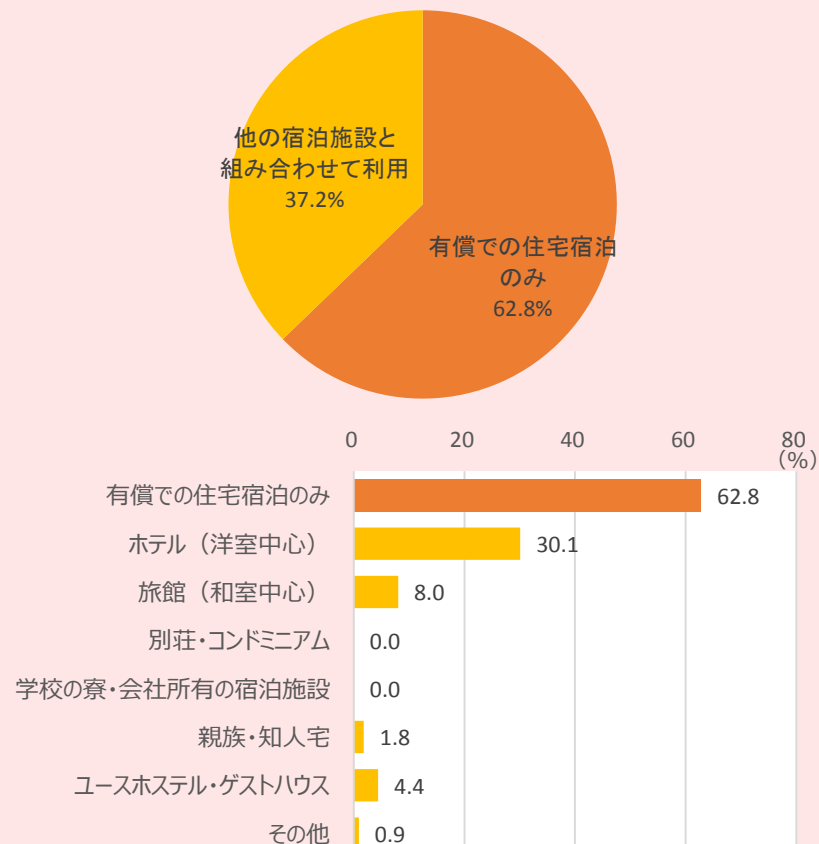
【費目別1人当たり旅行支出構成比】



【費目別1人1泊当たり旅行支出】 (万円/人泊)



【図表22】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日台湾人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)

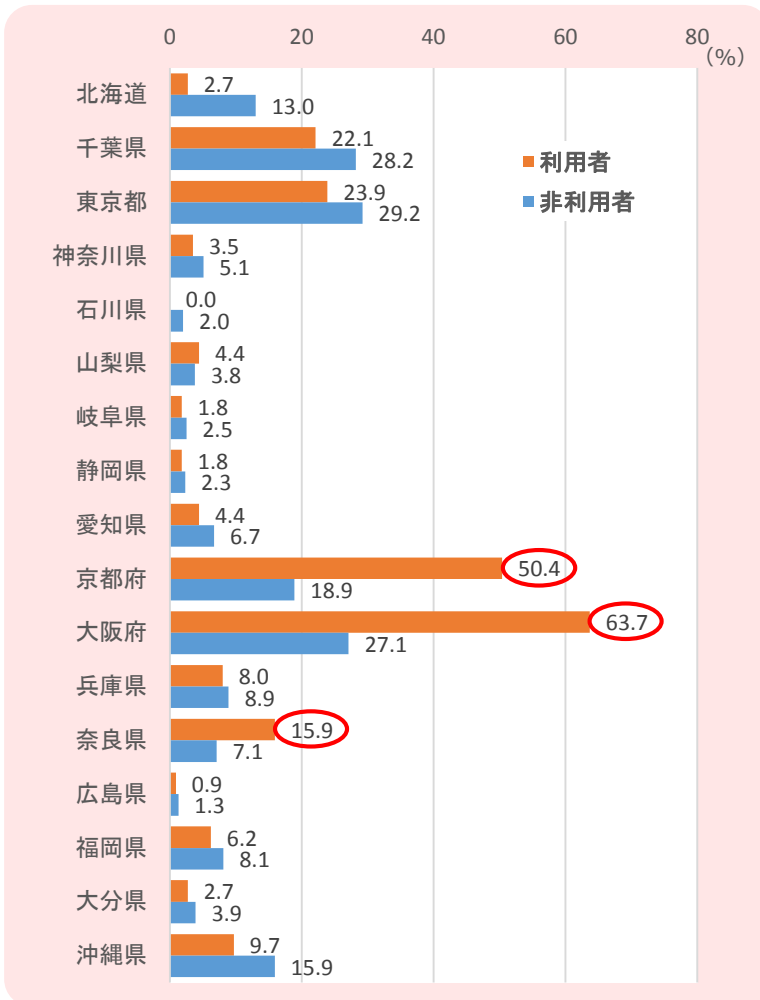


(注1) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

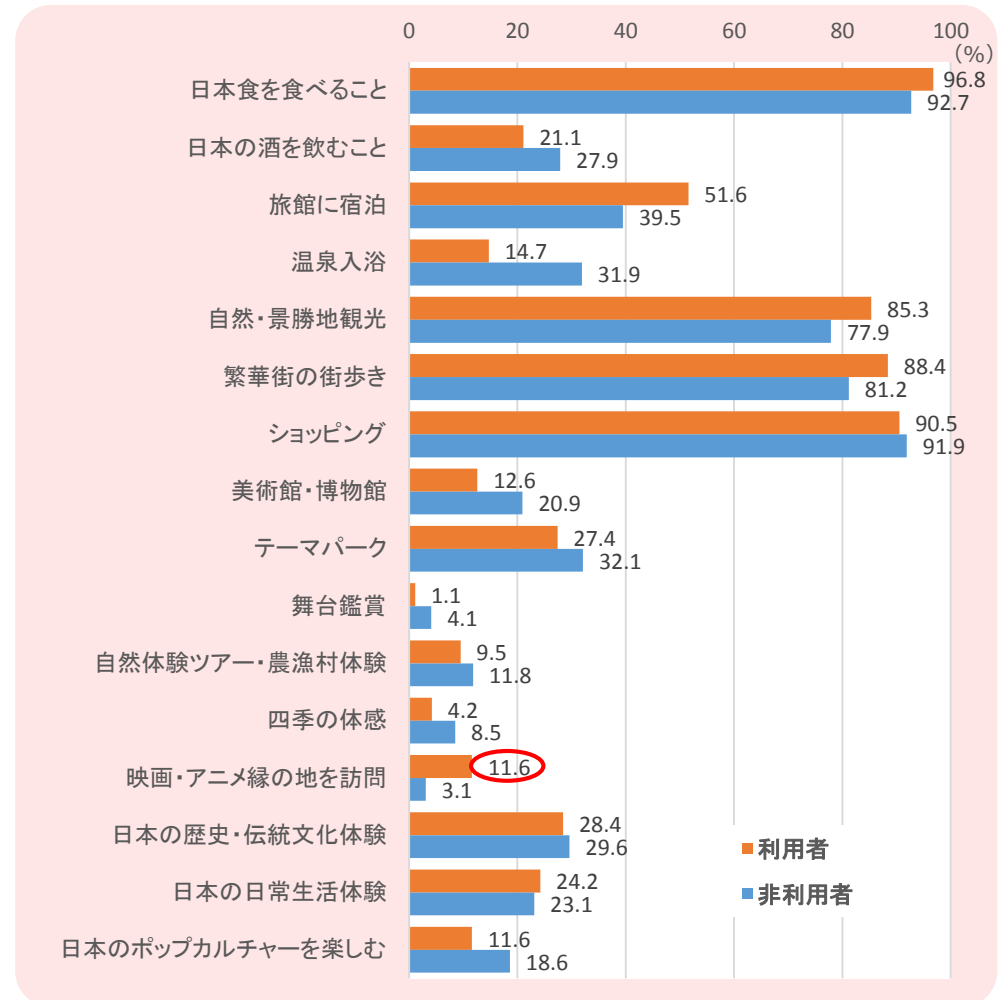
(注2) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【台湾】「有償での住宅宿泊」利用者の訪問地・活動

【図表23】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日台湾人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表24】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日台湾人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)



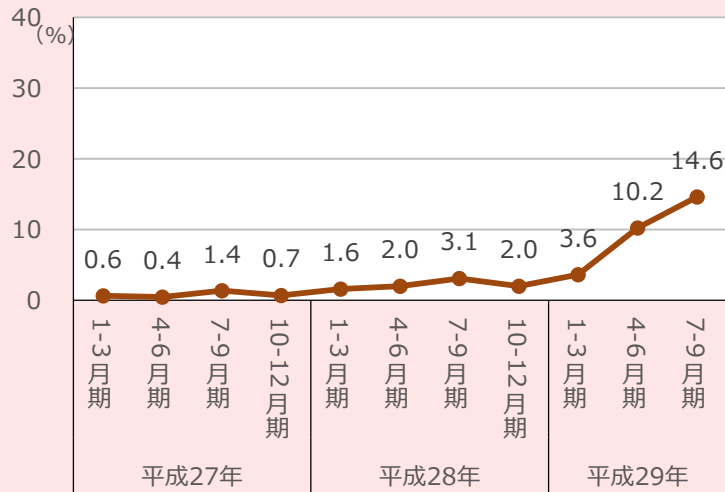
(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空海港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

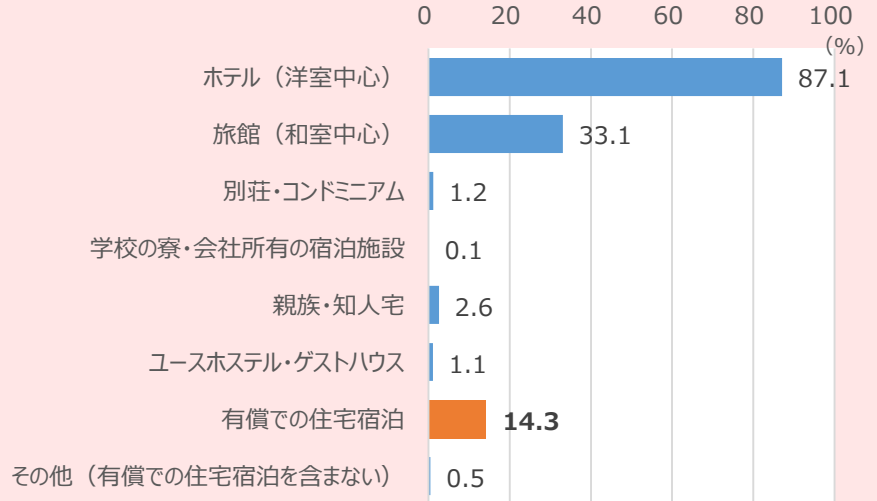
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

- 訪日中国人観光客の利用宿泊施設における「その他（有償での住宅宿泊を含む）」の選択率は平成29年より大きく増加している【図表25】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、「ホテル」（87.1%）、「旅館」（33.1%）に次いで、「有償での住宅宿泊」は14.3%と3番目に高い結果となった【図表26】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者は非利用者に比べて、年代では「20代以下」、旅行手配方法では「個別手配」、同行者では「友人」が多く、滞在日数が長い。利用者の平均泊数は8.0泊と、非利用者に比べて1.7泊長い【図表27】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は22.9万円と、非利用者（23.0万円）に比べて大きな差はない。一方、旅行支出の構成比は利用者の方が、非利用者よりも「買物代」の占める割合が高い【図表28】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の都道府県訪問率は、非利用者に比べて「大阪府」や「京都府」「奈良県」が高い【図表30】。「有償での住宅宿泊」利用者の日本滞在中における「今回したこと」は、非利用者に比べ「テーマパーク」や各種体験などが高い【図表31】。

【図表25】 日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」^(注1)利用率の推移（中国人観光客）



【図表26】 訪日中国人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率（平成29年7-9月期、複数回答）



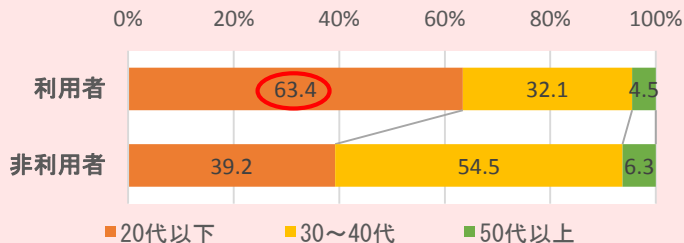
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親戚・知人訪問などは含まない。

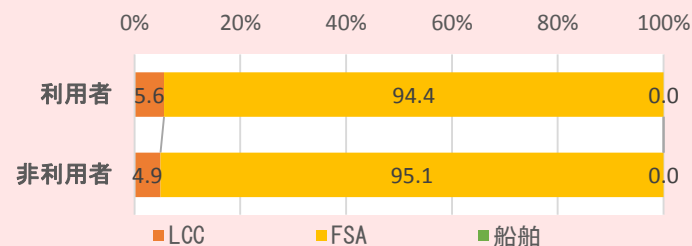
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表27】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日中国人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

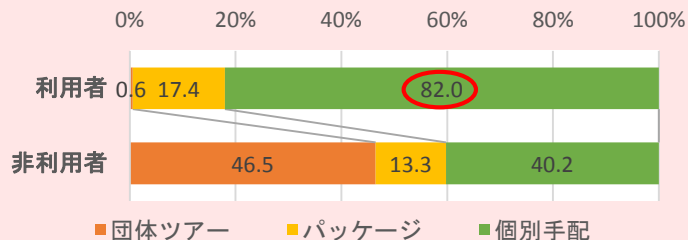
【年代】



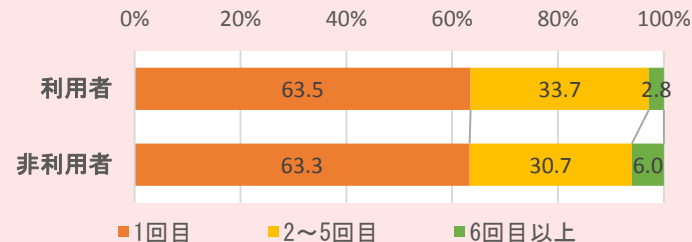
【往復交通手段(注1)】



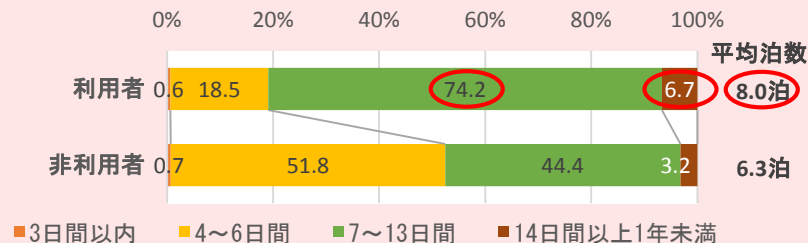
【旅行手配方法】



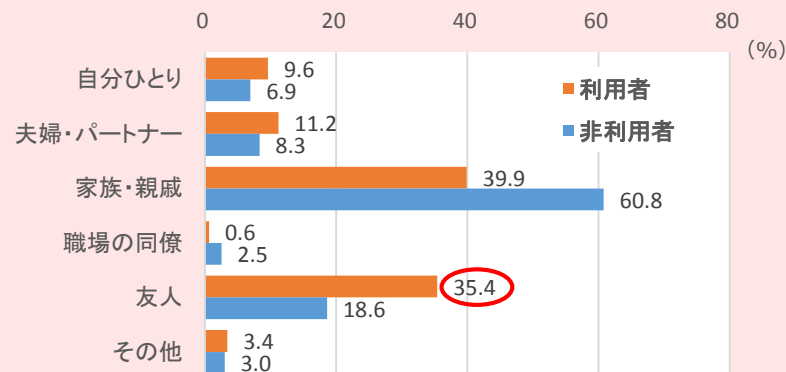
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者(注2)】



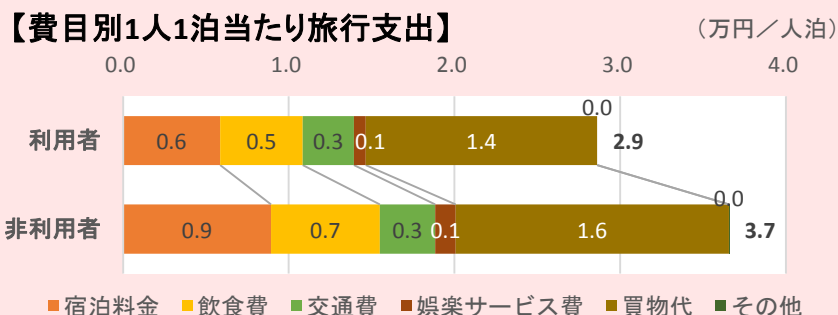
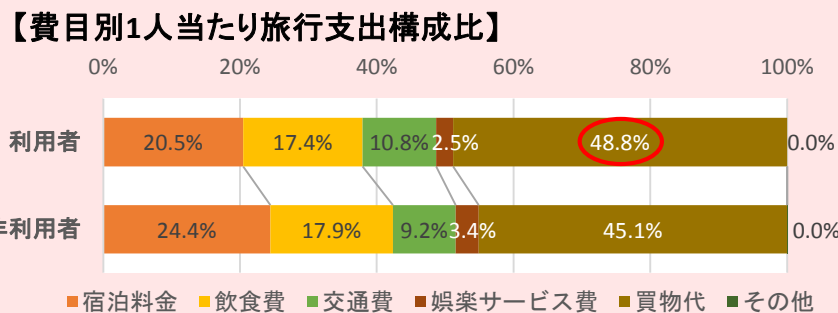
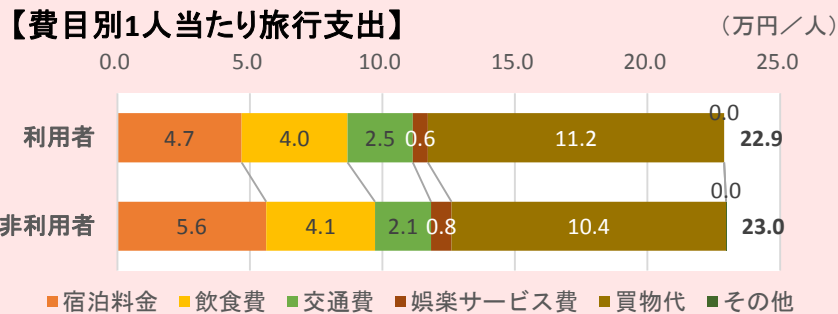
(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

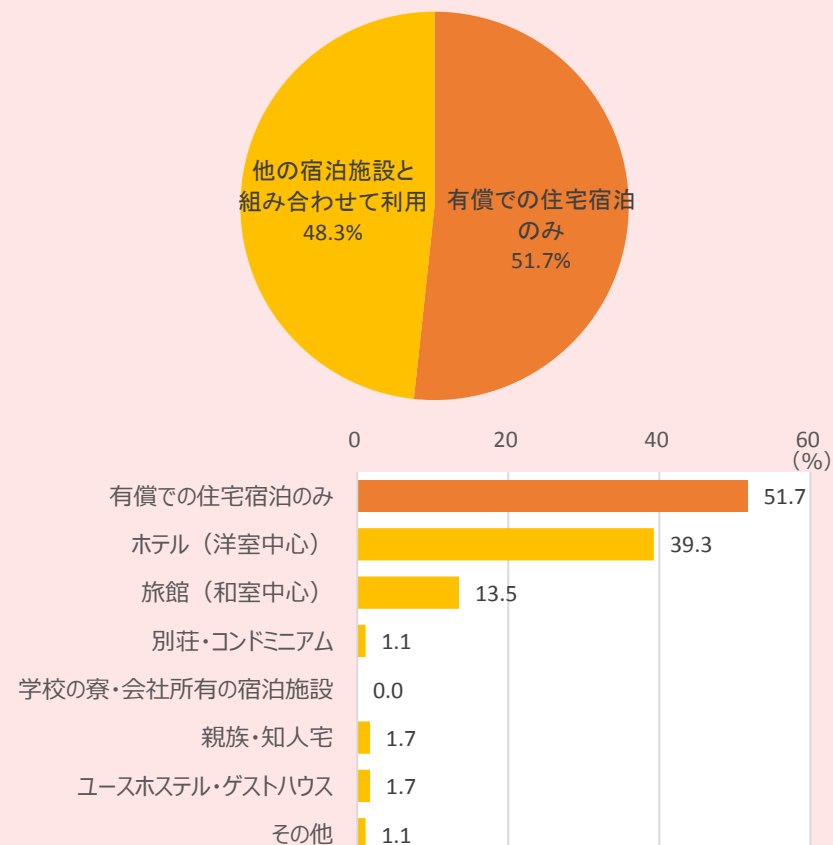
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表28】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日中国人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)



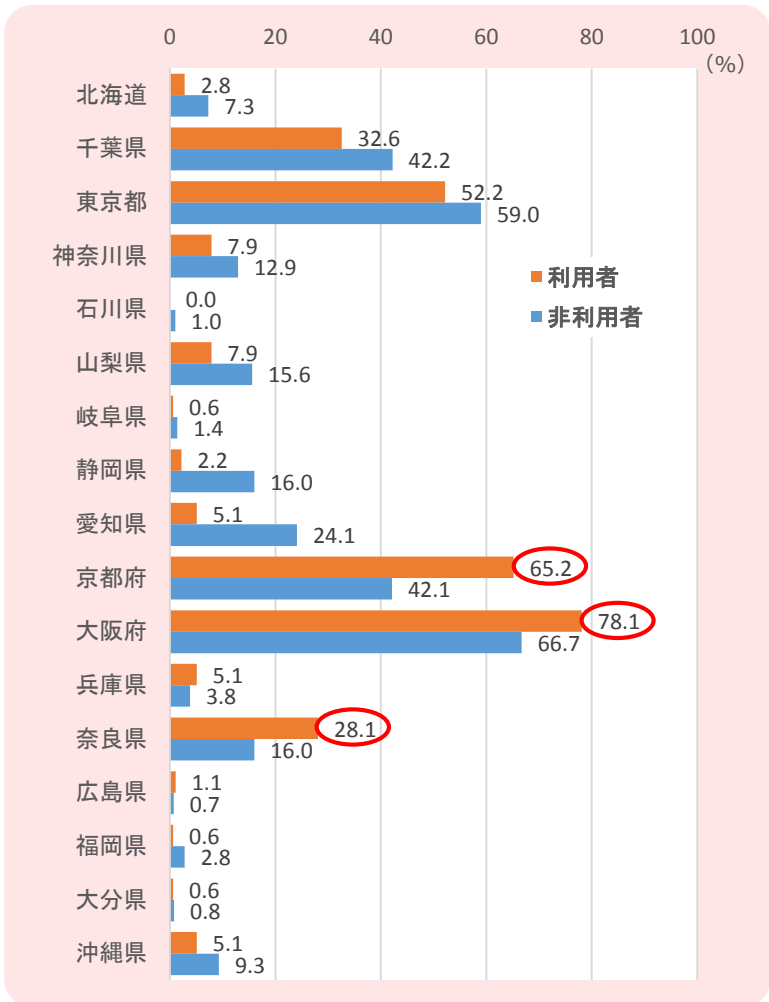
【図表29】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日中国人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)



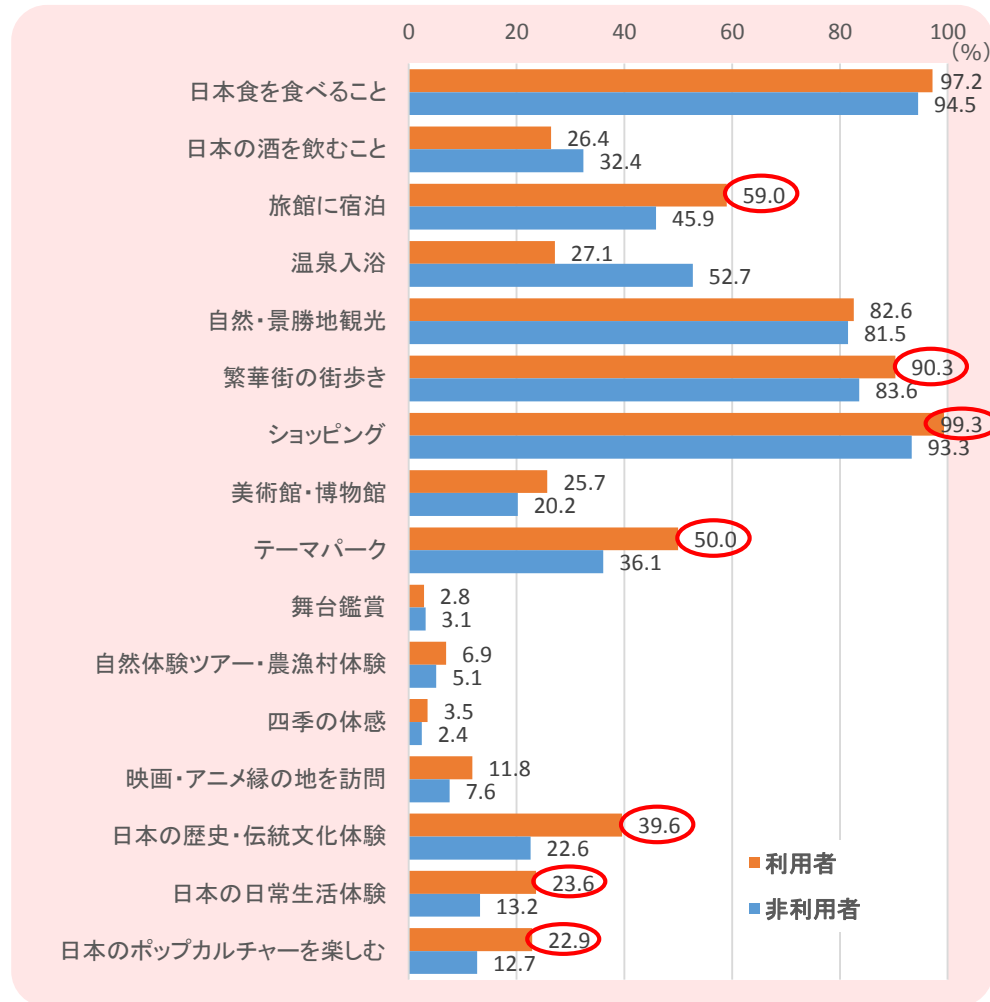
(注1) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。
(注2) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【中国】「有償での住宅宿泊」利用者の訪問地・活動

【図表30】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日中国人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表31】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日中国人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)

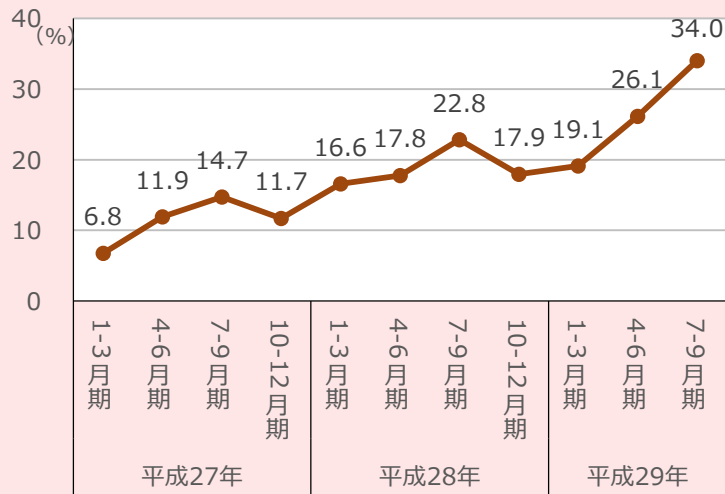


(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空海港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。
(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

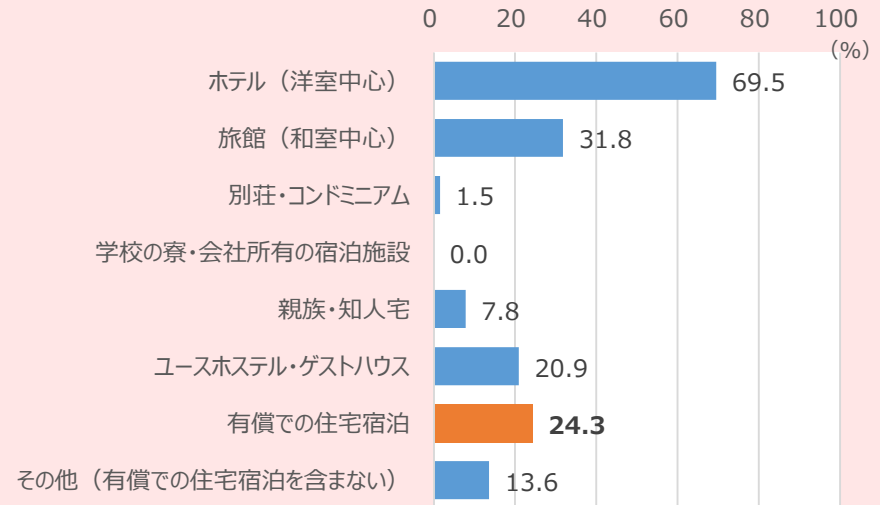
【欧州】「有償での住宅宿泊」利用率は24.3%

- 訪日欧州人観光客の利用宿泊施設における「その他(有償での住宅宿泊を含む)」の選択率は平成27年より増加傾向にあり、平成29年7-9月期は34.0%に上る【図表32】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率では、「有償での住宅宿泊」が24.3%と高い結果となった【図表33】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の平均泊数は16.8泊と、非利用者に比べて3.2泊長い【図表34】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は20.9万円で、非利用者(22.0万円)と比べて大きく変わらない【図表35】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者のうち60.5%が「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用している【図表36】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者と非利用者で、都道府県訪問率や、日本滞在中における「今回したこと」の選択率に大きな差は見られない【図表37】【図表38】。

【図表32】 日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」(注1)利用率の推移(欧州人観光客)



【図表33】 訪日欧州人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率(平成29年7-9月期、複数回答)



(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。

(注2) 「欧州」は英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペインを指す。

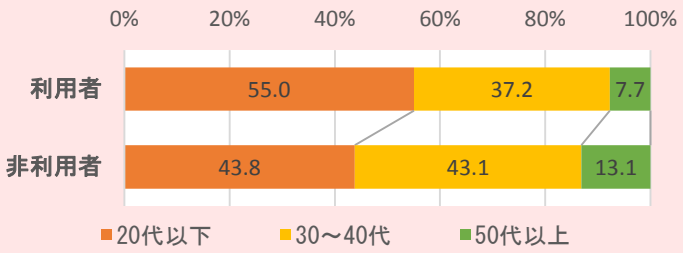
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

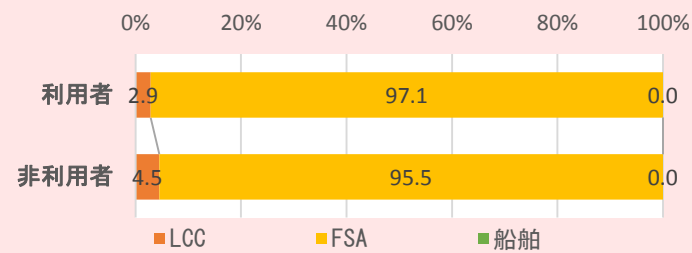
【欧州】「有償での住宅宿泊」利用者の客層・旅行内容

【図表34】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日欧州人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

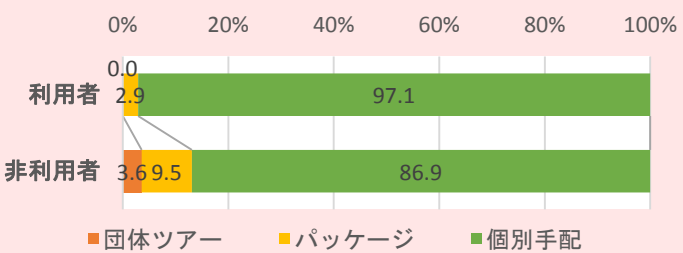
【年代】



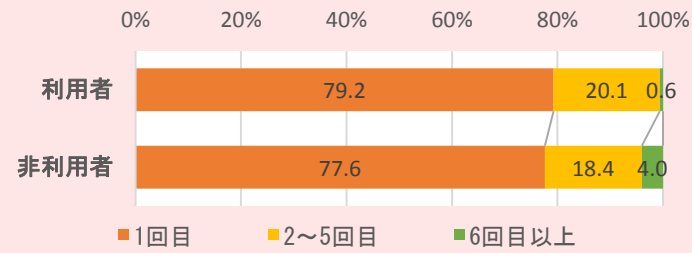
【往復交通手段(注1)】



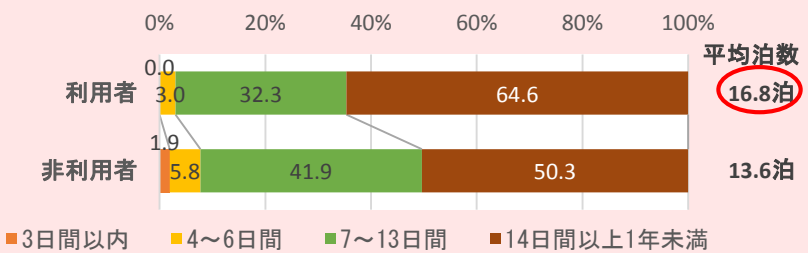
【旅行手配方法】



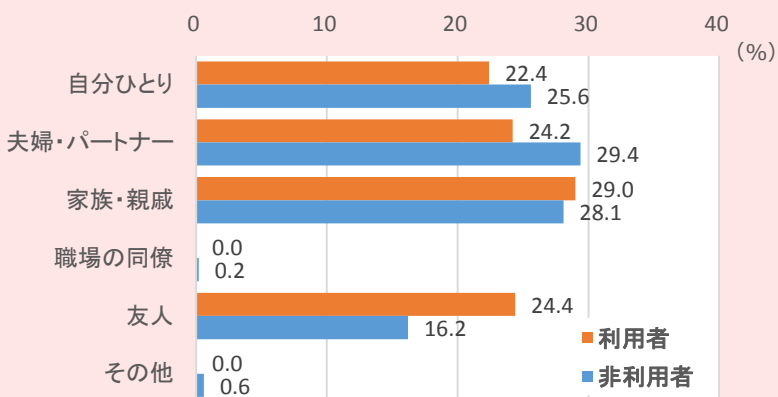
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者(注2)】



(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

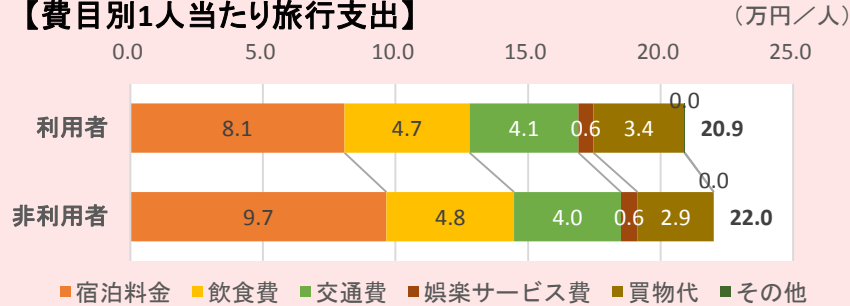
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

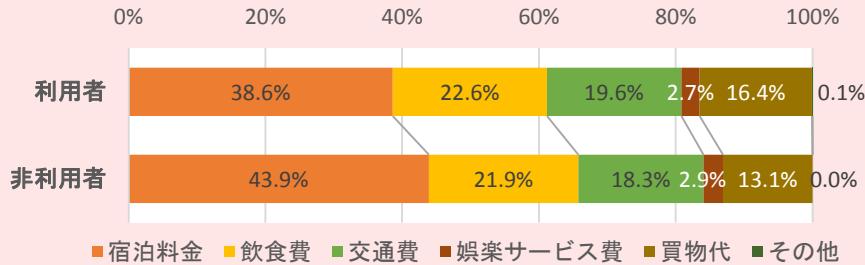
【欧州】「有償での住宅宿泊」利用者の旅行支出・宿泊状況

【図表35】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日欧州人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)

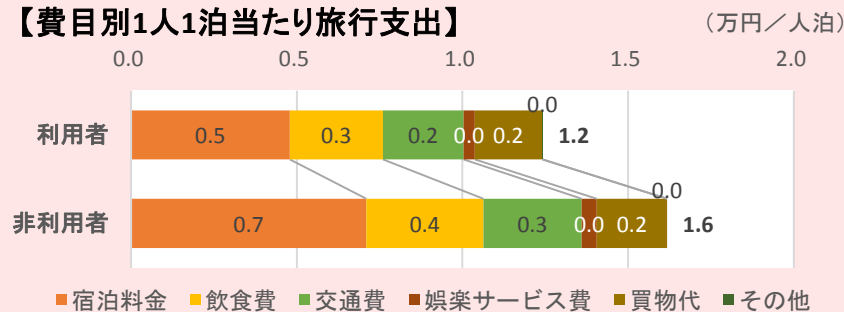
【費目別1人当たり旅行支出】



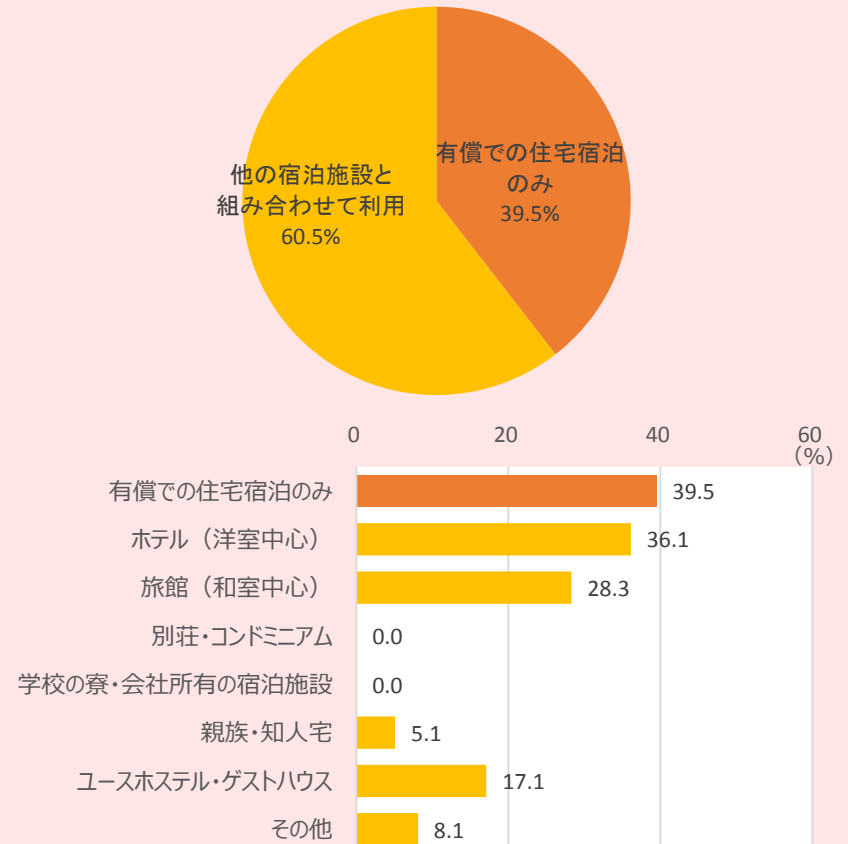
【費目別1人当たり旅行支出構成比】



【費目別1人1泊当たり旅行支出】



【図表36】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日欧州人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)



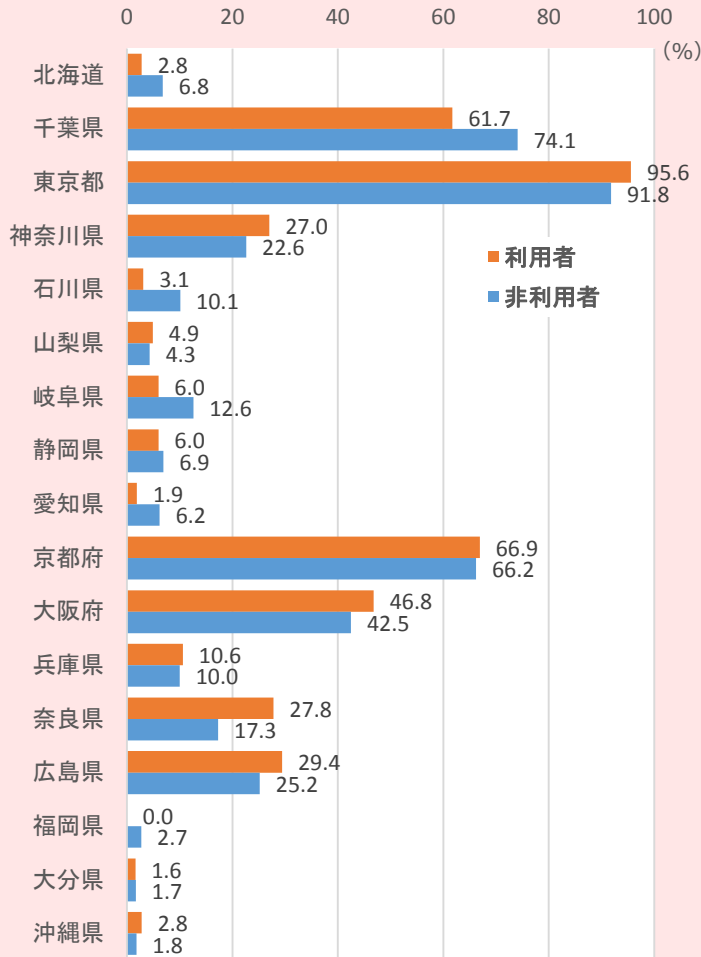
(注1) 「欧州」は英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペインを指す。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

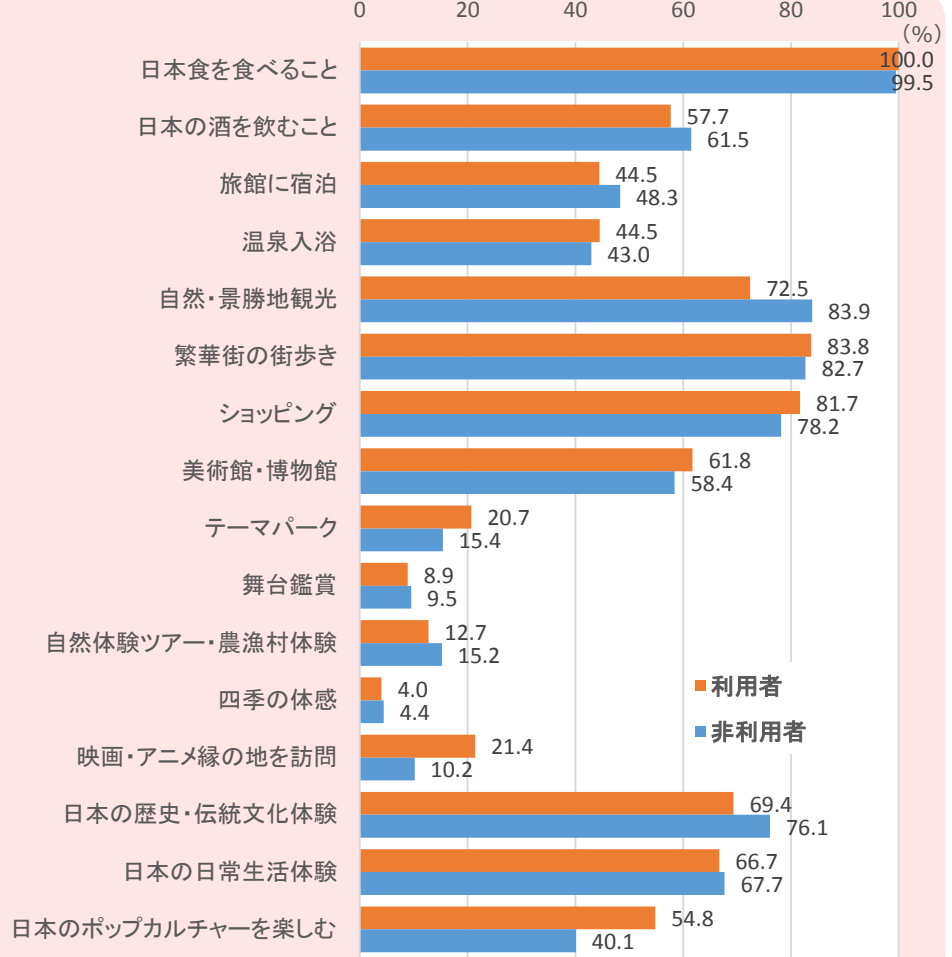
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【欧州】「有償での住宅宿泊」利用者の訪問地・活動

【図表37】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日欧州人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表38】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日欧州人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)



(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。

(注2) 「欧州」は英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペインを指す。

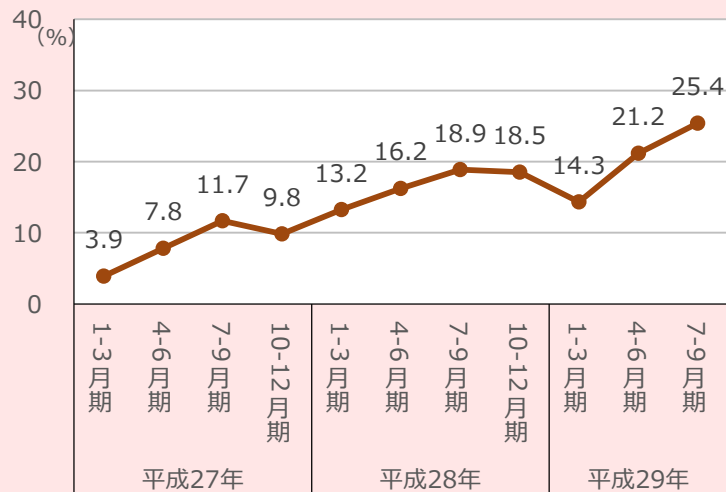
(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

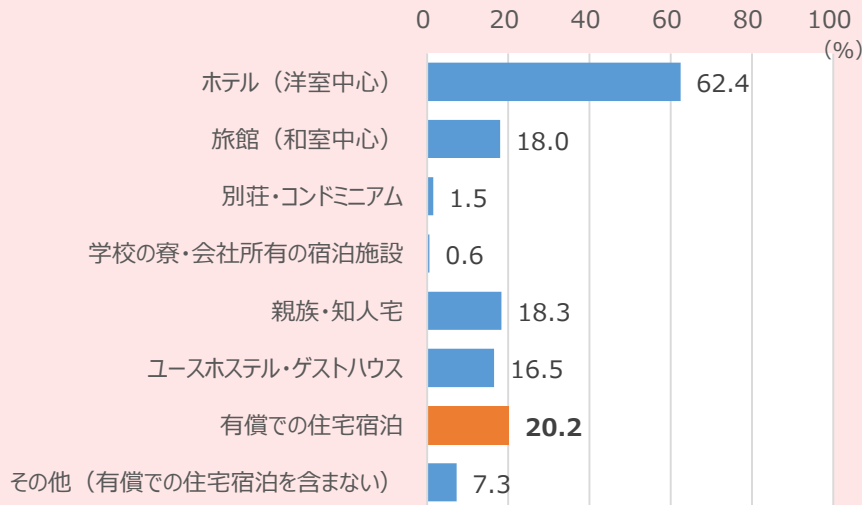
【米国】「有償での住宅宿泊」利用では友人旅行が多い

- 訪日米国人観光客の利用宿泊施設における「その他(有償での住宅宿泊を含む)」の選択率は平成27年より増加傾向にある【図表39】。
- 平成29年7-9月期の宿泊施設利用率は、最も高い「ホテル」(62.4%)に次いで、「有償での住宅宿泊」が20.2%と2番目に高い【図表40】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者では非利用者に比べて、同行者では「友人」が多い【図表41】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の1人当たり旅行支出は16.4万円で、非利用者(17.5万円)と比べて大きく変わらない【図表42】。「有償での住宅宿泊」利用者のうち51.5%が「ホテル」や「旅館」「親族・知人宅」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用している【図表43】。
- 「有償での住宅宿泊」利用者の都道府県訪問率は「京都府」や「大阪府」が高い【図表44】。「有償での住宅宿泊」利用者と非利用者で、日本滞在中における「今回したこと」の選択率に大きな差は見られない【図表45】。

【図表39】 日本滞在中の利用宿泊施設における「その他」(注1)利用率の推移(米国人観光客)



【図表40】 訪日米国人観光客の日本滞在中における宿泊施設利用率(平成29年7-9月期、複数回答)



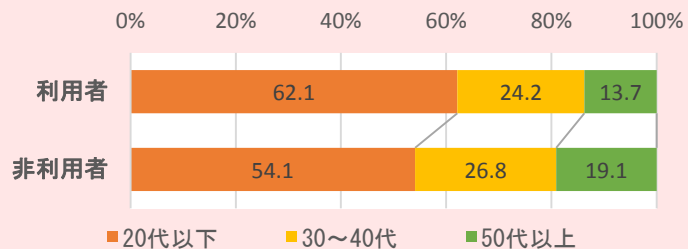
(注1) このグラフでの「その他」はホテル、旅館、別荘・コンドミニアム、学校の寮・会社所有の宿泊施設、親戚・知人宅、ユースホステル・ゲストハウス以外の宿泊施設を指し、「有償での住宅宿泊」を含む。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

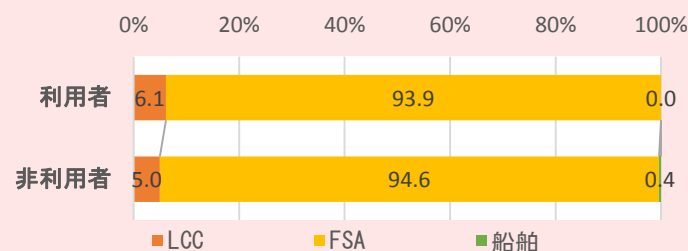
(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【図表41】「有償での住宅宿泊」利用有無別 訪日米国人観光客の客層・旅行内容(平成29年7-9月期)

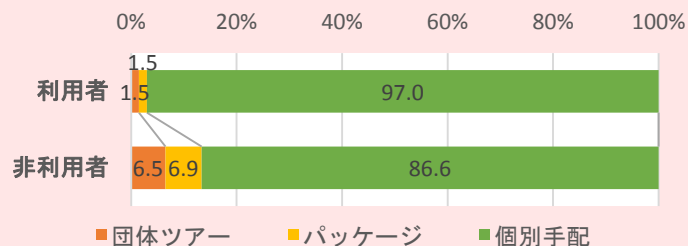
【年代】



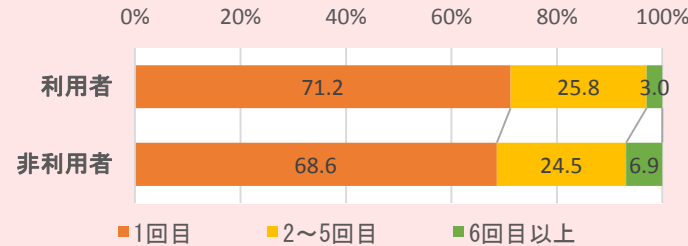
【往復交通手段(注1)】



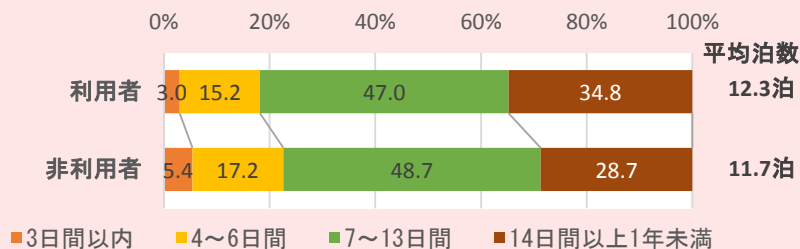
【旅行手配方法】



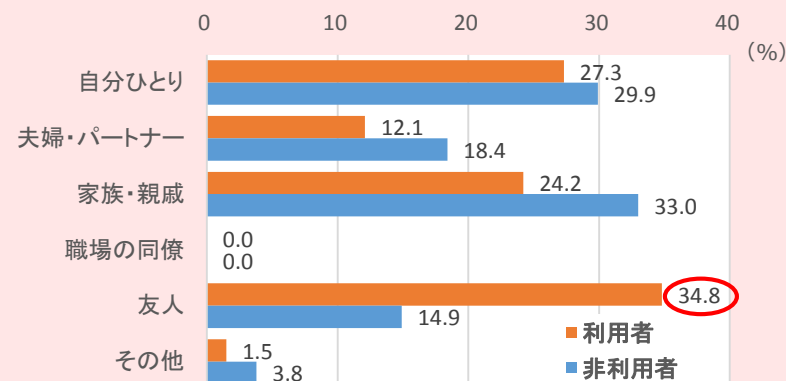
【来訪回数】



【滞在日数】



【同行者(注2)】



(注1) 凡例の「LCC(ローコストキャリア)」は格安航空会社、「FSA(フルサービスエアライン)」はLCC以外の航空会社を指す。

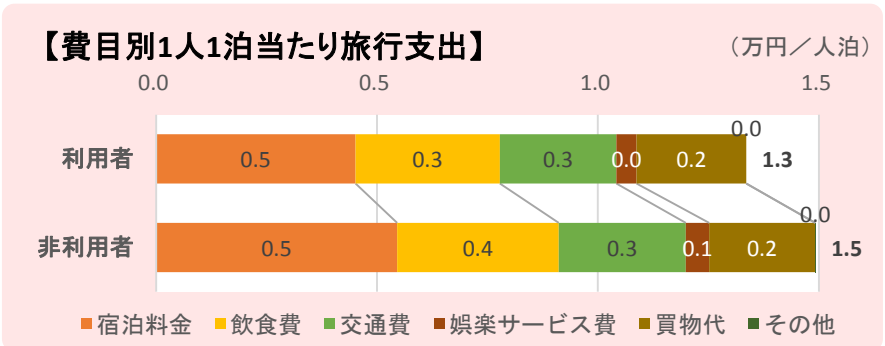
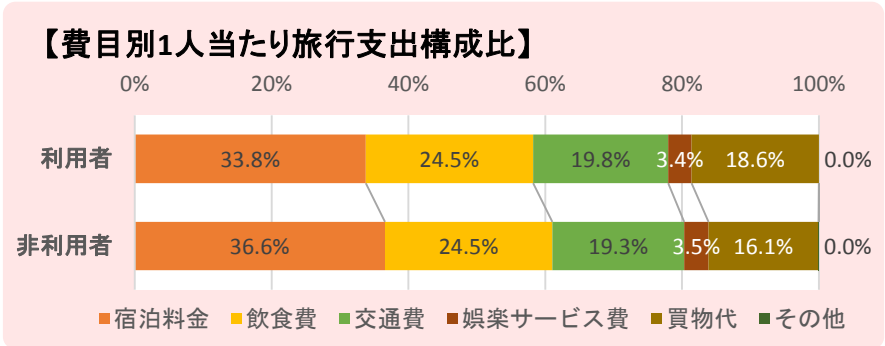
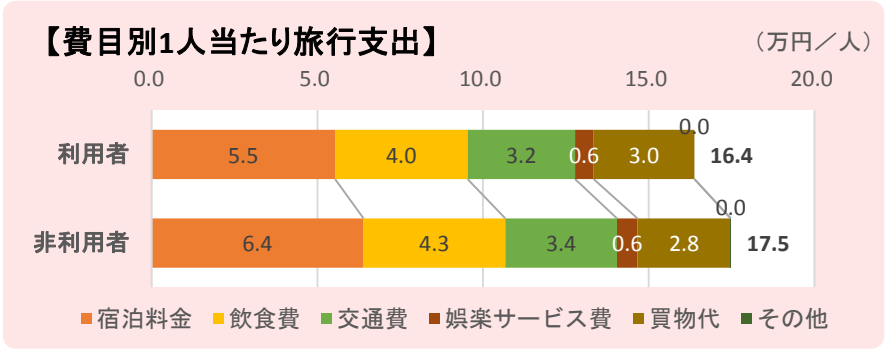
(注2) 「同行者」の設問は複数回答だが、図表では「同行者」を2つ以上選択した回答を「その他」として集計している。

(注3) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。

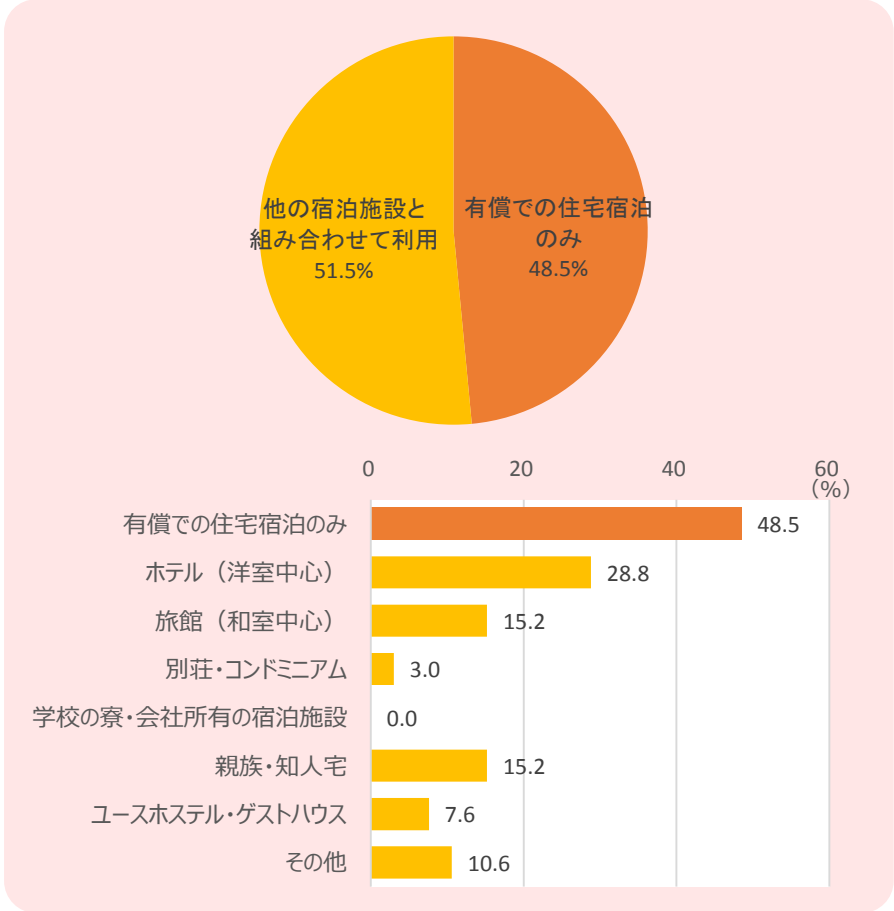
(注4) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【米国】「有償での住宅宿泊」利用者の旅行支出・宿泊状況

【図表42】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日米国人観光客の1人当たり費目別旅行支出
(平成29年7-9月期)



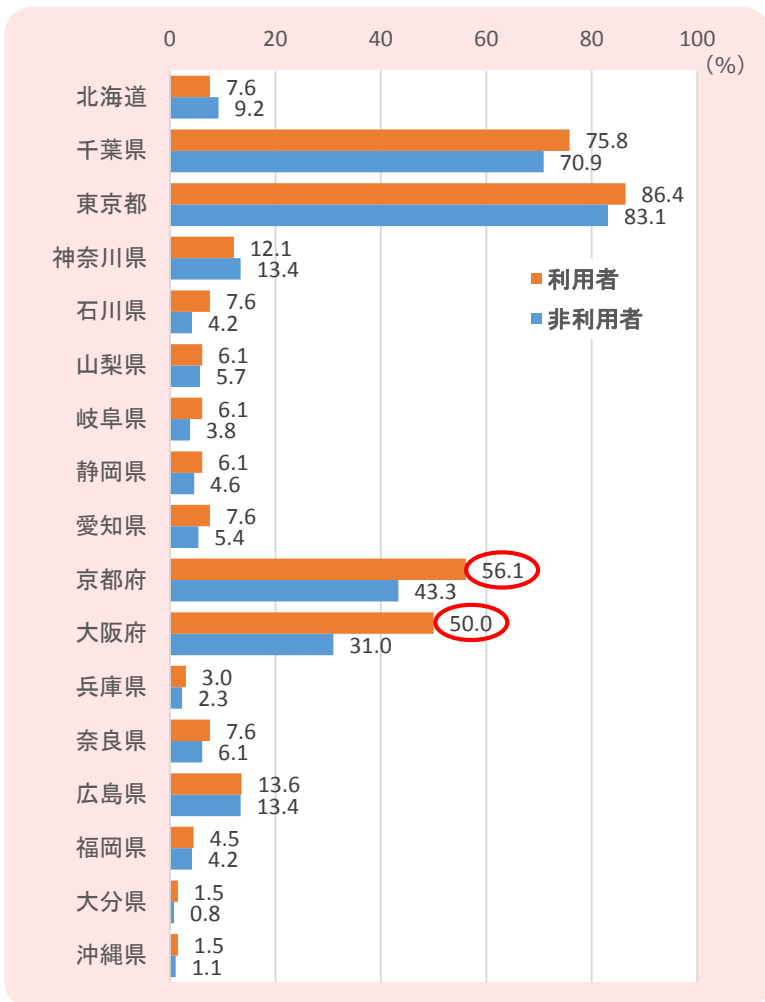
【図表43】「有償での住宅宿泊」を利用した訪日米国人観光客による他の宿泊施設利用率
(平成29年7-9月期、複数回答)



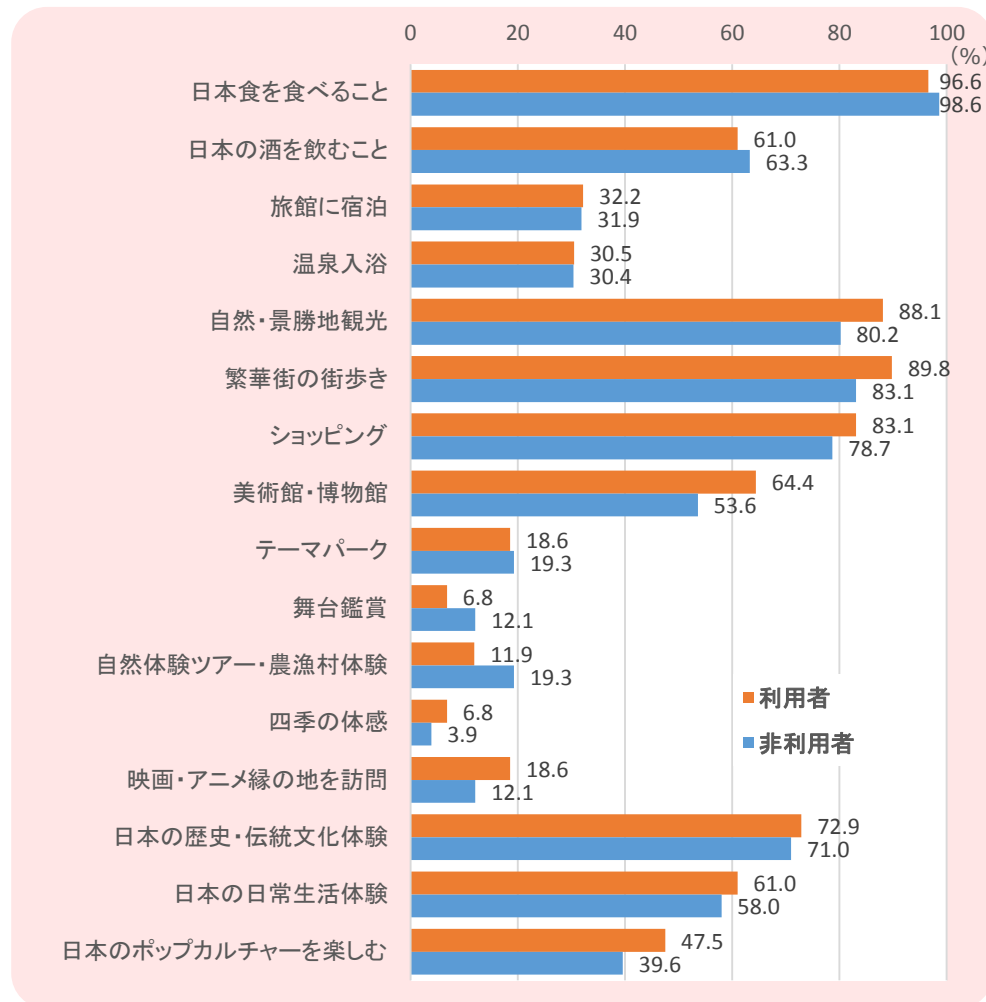
(注1) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。
(注2) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【米国】「有償での住宅宿泊」利用者の訪問地・活動

【図表44】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日米国人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)



【図表45】「有償での住宅宿泊」利用有無別
訪日米国人観光客の「今回したこと」
(平成29年7-9月期)



(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空海港の所在地が含まれる。各国籍・地域における訪問率が高い都道府県のみ掲載している。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。

【参考】「有償での住宅宿泊」利用有無別訪日外国人観光客の都道府県訪問率^(注1)
(平成29年7-9月期)

						(%)		
	利用者	非利用者		利用者	非利用者		利用者	非利用者
北海道	3.8	10.9	石川県	0.8	1.6	岡山県	1.5	0.7
青森県	0.5	0.4	福井県	0.0	0.2	広島県	3.8	2.6
岩手県	0.0	0.1	山梨県	4.4	7.3	山口県	0.7	0.8
宮城県	0.4	0.8	長野県	1.0	1.7	徳島県	0.1	0.4
秋田県	0.0	0.1	岐阜県	1.1	2.1	香川県	0.8	1.0
山形県	0.1	0.2	静岡県	1.7	6.7	愛媛県	0.5	0.4
福島県	0.3	0.0	愛知県	4.0	11.1	高知県	0.3	0.2
茨城県	0.0	0.3	三重県	0.3	0.6	福岡県	8.4	10.0
栃木県	0.6	0.9	滋賀県	0.1	0.3	佐賀県	0.4	0.8
群馬県	0.4	0.2	京都府	48.9	28.5	長崎県	1.3	2.4
埼玉県	0.5	0.5	大阪府	63.7	44.1	熊本県	1.2	2.4
千葉県	30.1	32.9	兵庫県	6.8	5.8	大分県	2.4	4.1
東京都	40.2	41.0	奈良県	16.1	9.2	宮崎県	0.1	0.3
神奈川県	6.4	7.6	和歌山県	3.3	1.1	鹿児島県	0.8	0.9
新潟県	0.4	0.7	鳥取県	0.7	0.2	沖縄県	6.5	11.1
富山県	0.5	0.6	島根県	0.4	0.1	延べ合計	266.3	255.9

(注1) 訪問率は、旅行者が各都道府県を訪れた割合。訪問地には出入国空港の所在地が含まれる。

(注2) 平成29年7-9月期における観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象としており、業務や親族・知人訪問などは含まない。国籍・地域別のJNTO訪日外客数によるウェイトバック処理を施して算出している。

(注3) 「有償での住宅宿泊」利用者には、「有償での住宅宿泊」に加えて、「ホテル」や「旅館」など、他の宿泊施設と組み合わせて利用した人も含まれている。